

第 2 1 回 柿田川自然再生検討会

議事次第

1. 議 事

- | | |
|-----------------------|------|
| 1) 柿田川自然再生検討会 設置要領の改訂 | 資料 1 |
| 2) 今年度の取組と今後の進め方 | 資料 2 |

(資料一覧)

議事次第、設立趣旨

資料 1 柿田川自然再生検討会 設置要領(案)

資料 2 今年度の取組と今後の進め方

柿田川自然再生検討会 設置要領

(名 称)

第1条 本会は「柿田川自然再生検討会」(以下「検討会」という)と称する。

(目 的)

第2条 河川整備計画の目標である柿田川の河川環境の保全・再生を目指した「柿田川自然再生計画」を策定、及び「柿田川自然再生計画」に基づく取り組みを実施するにあたり、様々な観点から審議し、助言を行うことを検討会の目的とする。

(委 員)

第3条 検討会の委員は、自然保護団体及び有識者、行政の委員で構成するものとし、国土交通省沼津河川国道事務所長が選任し委嘱するものとする。
2. 検討会の構成は別紙1のとおりとする。

(会 長)

第4条 検討会には会長を置き、委員の互選によりこれを定める。
2. 会長は、検討会を代表し会務を統括する。
3. 会長が不在の場合、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。
4. 会長は、第5条の審議を行う上で、環境分野における高い専門的知見を有する者等を臨時委員として選任することができる。

(審議事項)

第5条 検討会は、「柿田川自然再生計画」について、次の事項の審議を行うものとする。
(1) 柿田川の河川環境の保全・再生に関する事項
(2) 各機関の連携に関する事項

(運 営)

第6条 検討会の開催は、必要に応じて会長が招集を行う。
2. 検討会の議長は、会長がこれにあたる。
3. 検討会の庶務は、国土交通省沼津河川国道事務所流域治水課において処理する。

(情報公開)

第7条 会議資料及び議事録骨子は原則的に公開し、沼津河川国道事務所ホームページにおいて閲覧できるものとする。
2. 公開にあたって、貴重種の情報、個人情報は公開しない。
3. 検討会の開催にあたっては記者発表を行い、マスコミ関係者の傍聴を認めるものとする。

(雑 則)

第8条 この規約に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

(附 則)

この規約は、平成23年 9月 6日から施行する。
改正 平成23年10月14日から施行する。
改正 平成25年 2月26日から施行する。
改正 平成25年 7月30日から施行する。
改正 平成26年 6月19日から施行する。
改正 平成27年 2月26日から施行する。
改正 平成27年 7月15日から施行する。
改正 平成28年 3月17日から施行する。
改正 平成30年 1月16日から施行する。
改正 令和 元年12月25日から施行する。
改正 令和 3年 2月 3日から施行する。
改正 令和 4年 2月18日から施行する。
改正 令和 5年 1月24日から施行する。
改正 令和 6年 2月14日から施行する。
改正 令和 7年 1月23日から施行する。
改正 令和 8年 3月31日から施行する。

以 上

(別紙1)

氏名	所属・役職	分野	備考
石垣 雅雄	柿田川湧水保全の会 会長	自然保護団体	
板井 隆彦	静岡淡水魚研究会 会長	学識者	
漆畑 信昭	公益財団法人 柿田川みどりのトラスト 会長	自然保護団体	
角野 康郎	神戸大学 名誉教授	学識者	
藤浪 武志	国土交通省 沼津河川国道事務所 所長	行政機関	
鈴木 安由美	静岡県スポーツ・文化観光部 文化財課 課長	行政機関	
永野 大輔	静岡県企業局水道企画課 課長	行政機関	
関 義弘	清水町 町長	行政機関	
知花 武佳	政策研究大学院大学 教授	学識者	
三島 次郎	桜美林大学 名誉教授	学識者	会長

(五十音順、敬称略)

今年度の取組と今後の進め方

令和8年3月23日

柿田川自然再生検討会

1. **(モニタリング)柿田川の湧水量及び水質の監視**
 - 1.1 湧水量及び水質の監視
2. **(整備メニュー1)オオカワヂシャの駆除・在来種の再生**
(整備メニュー2)その他侵略的外来植物の駆除・在来種の再生
 - 2.1 外来種駆除
 - 2.2 オオカワヂシャの駆除
 - 2.3 ノハカタカラクサの駆除
 - 2.4 ナガエツルノゲイトウの除去
 - 2.5 在来種の再生
3. **(整備メニュー3)柿田川にとって最適な河畔林の状態の検討、及び河川管理上支障となるものや、住民からの要望
箇所で生態や環境に影響のない範囲での対策の実施**
(整備メニュー6)河岸洗掘及び法面侵食箇所の経過観察
 - 3.1 河畔林の水面被覆状況調査
 - 3.2 河畔林の状態把握
 - 3.3 河畔林の維持の取組と法面侵食による土砂流出監視
4. **(モニタリング)柿田川に特徴的な動物の生息状況の把握**
 - 4.1 アオハダトンボ等のモニタリング
5. **(整備メニュー4)堆積土砂の撤去及びツルヨシの駆除**
 - 5.1 堆積土砂の撤去及びツルヨシの駆除に関するモニタリング
6. **(整備メニュー5)2号排水路撤去のための影響評価及び方針検討**
 - 6.1 2号排水路の撤去実績とモニタリング調査
 - 6.2 下水道整備計画(清水町)
7. **(整備メニュー7)人との関わりに関する検討**
 - 7.1 新しいルールや枠組みに関する提案
 - 7.2 柿田川への関心を高める取組

1. (モニタリング)

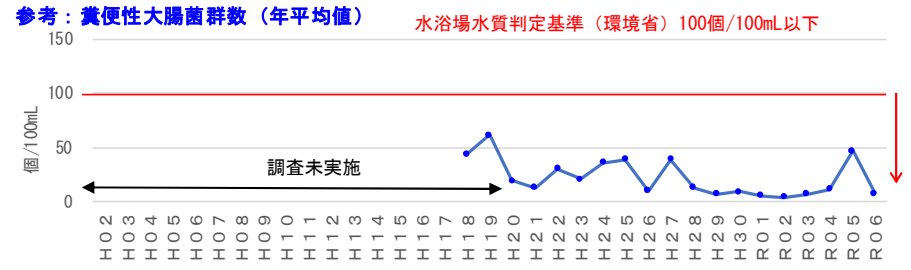
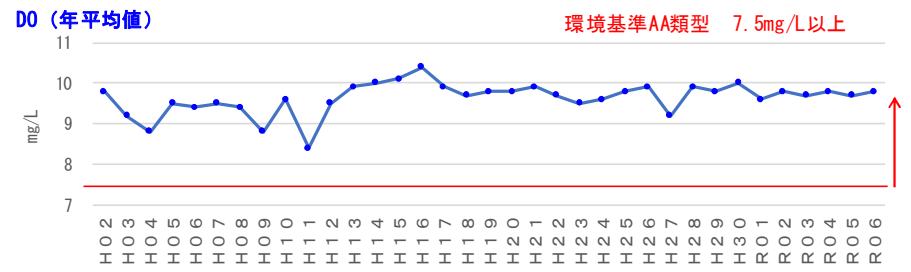
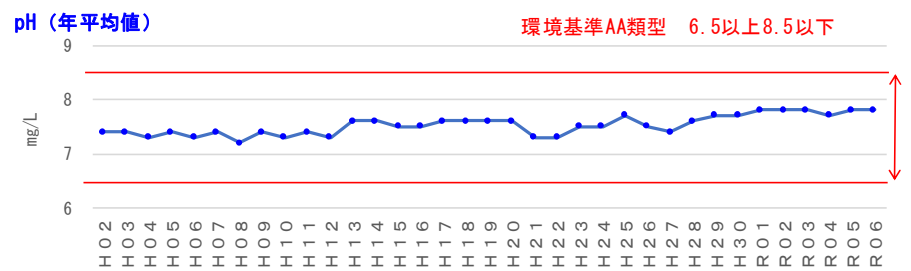
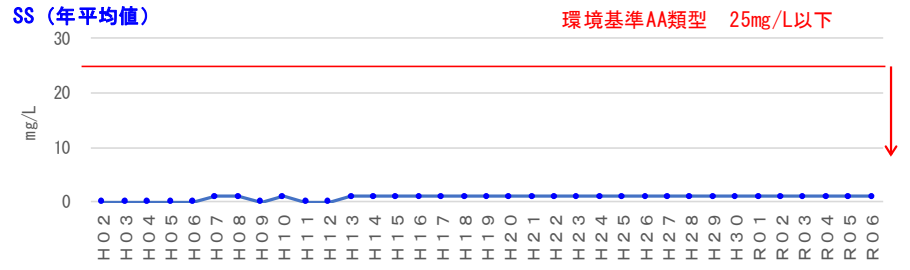
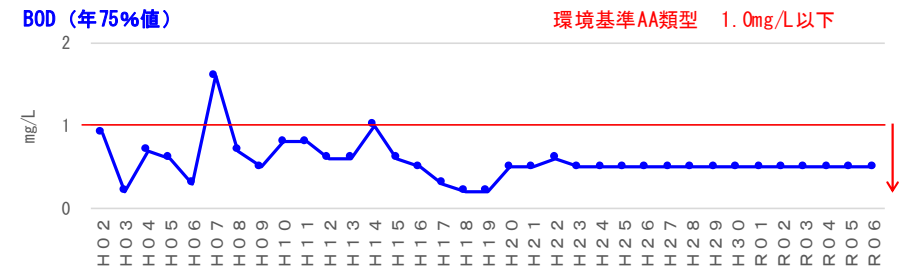
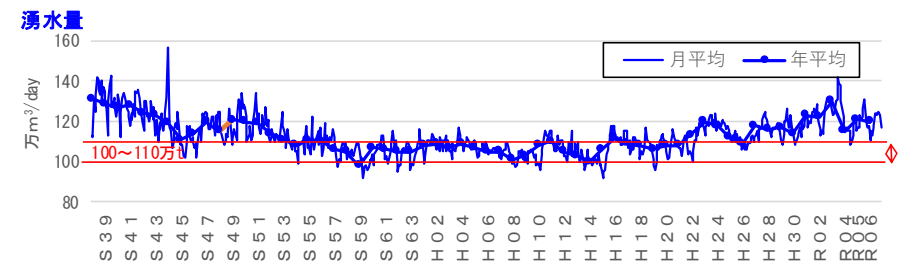
柿田川の湧水量及び水質の監視

1.1 湧水量及び水質の監視(経年の変化)

〈自然再生の目標〉現在の湧水量(100~110万m³/日程度)を維持する。
 現在の水質(水質観測箇所:柿田橋地点において生活環境の保全に関する環境基準:AA類型を満足する)を維持する。

〈目標に対する柿田川の現状〉
 ・110万m³/日程度の湧水量が維持されている。
 ・全項目で環境基準(AA類型)を満足している。

〈今後の進め方〉
 柿田川の湧水量・水質について今後も監視を継続する。



出典:(湧水量) 国土交通省沼津河川国道事務所 柿田川湧水年平均日量
 (上記以外)国土交通省水文水質データベース 柿田橋年統計水質検索結果

1.1 湧水量及び水質の監視(R6~7年度)

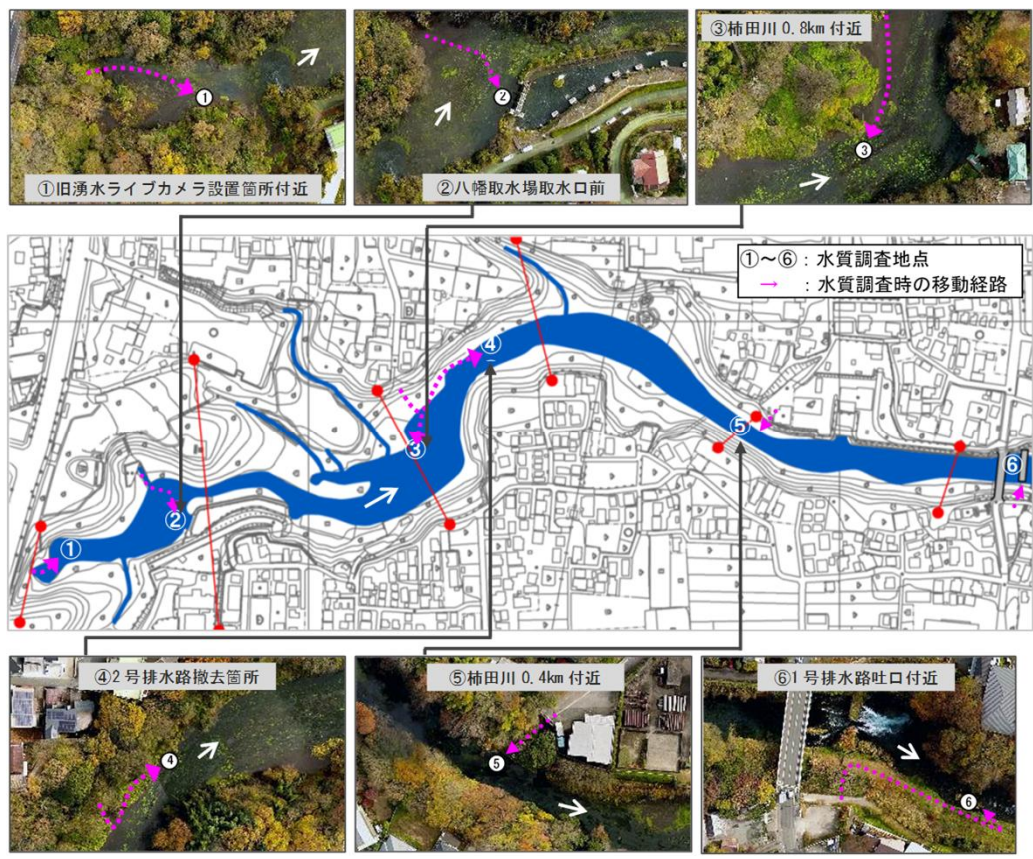
<自然再生の目標>柿田川に流入する支川・排水路からの水質を継続監視し、状況に応じて対応できる体制を維持する。

<目標に対する柿田川の現状>1号排水路吐口付近では、BOD・大腸菌数で断続的に環境基準(AA類型)を超過しているが、例年の傾向から逸脱するものではなく、一時的な増加と考えられる。

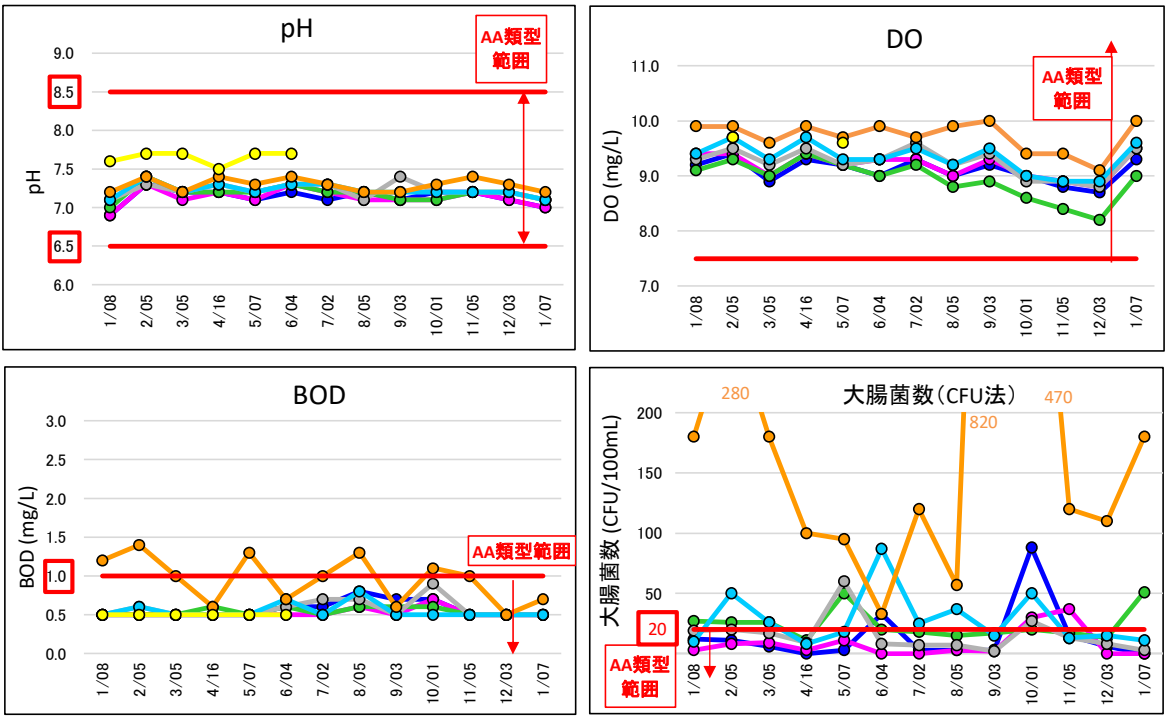
<今後の進め方>今後も流入支川・排水路からの水質を継続して監視していく。

河川からの流入支川・排水路からの水質調査の実施

水質調査地点



水質調査結果(R6~7年度)



- ①旧湧水ライブカメラ設置箇所付近 ● ③柿田川0.8km付近 ● ⑤柿田川0.4km付近
- ②八幡取水場取水口前 ● ④2号排水路撤去付近 ● ⑥1号排水路吐口付近

※ ● : 柿田橋 (参考として公共用水域水質測定計画による水質調査結果を併記)

2. (整備メニュー1)

オオカワヂシャの駆除・在来種の再生

(整備メニュー2)

その他侵略的外来植物の駆除・在来種の再生

2.1 外来種駆除(駆除実績)

〈自然再生の目標〉 柿田川全体での外来種生育密度低減に努める。

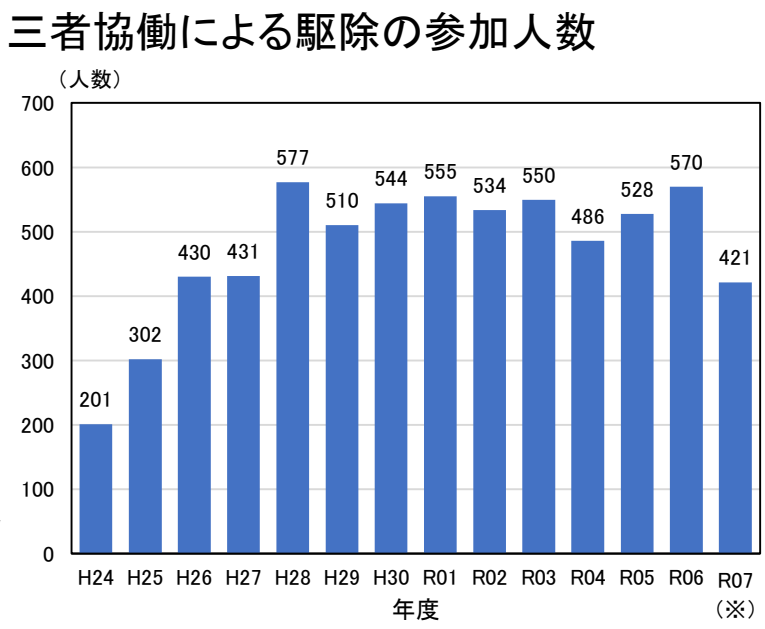
〈目標に対する柿田川の現状〉
 三者協働による駆除(※1): H24～H28にかけて参加者は増加し、その後も500人程度を維持。
 業者による集中駆除: 維持管理業者によるジョレン等を用いた集中駆除を2回実施。

〈今後の進め方〉 三者協働駆除及び集中駆除の連携のもと、戦略的な駆除を進める。



三者協働による駆除活動状況

※三者とは、柿田川みどりのトラスト、清水町及び国土交通省、HP等で公募したボランティアを指す。



R7年度の業者による外来種集中駆除活動実績

- ・第1回集中駆除 R7.6.9～R7.6.27
- ・第2回集中駆除 R7.10.20～R7.11.11

オオカワヂシャの駆除作業状況



三者協働による駆除の実施回数

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7(※)
回数	7	10	13	16	16	14	14	16	17	16	13	15	16	12

※令和7年度は雨天による中止が計4回あったため、例年に比べ実施回数及び参加人数が少ない結果となった。

2.1 外来種駆除(外来種駆除の計画)

〈自然再生の目標〉 柿田川全体での外来種生育密度低減に努める。

〈目標に対する柿田川の現状〉
 三者協働による駆除(※1): H24~H28にかけて参加者は増加し、その後も500人程度を維持。
 業者による集中駆除: 維持管理業者によるジョレン等を用いた集中駆除を2回実施。

〈今後の進め方〉 三者協働駆除及び集中駆除の連携のもと、戦略的な駆除を進める。

駆除(除去)対象: オオカワヂシャ、ノハカタカラクサ
 駆除(除去)方法: 三者協働による駆除、業者による集中駆除
 駆除(除去)方針: オオカワヂシャの駆除は、生育密度が高い箇所、種子の供給源となる上流側から優先的に行う。
 三者協働による駆除の対象種は、駆除実施日の外来種の繁茂状況で判断する。
 三者協働による駆除作業は、安全に作業できる範囲とする。
 業者による集中駆除は、安全管理を徹底した業者が、水深の深い箇所・傾斜が急な箇所などで行う。



オオカワヂシャ



ノハカタカラクサ

外来種駆除 R7~8年度 実施計画

駆除方法	駆除対象	R7年度			R8年度(予定)		
		4~10月	11月~12月	3月	4~10月	11月~12月	3月
三者協働 駆除	オオカワヂシャ	2回/月	1回/月	1回/月	2回/月	1回/月	1回/月
	ノハカタカラクサ						
駆除方法	駆除対象	R7年度		R8年度(予定)			
		6/9~6/27	10/20~11/11	5月頃	9月頃		
集中駆除	オオカワヂシャ	1回	1回	1回	1回		
	ノハカタカラクサ						

2.2 オオカワヂシャの駆除(生育面積)

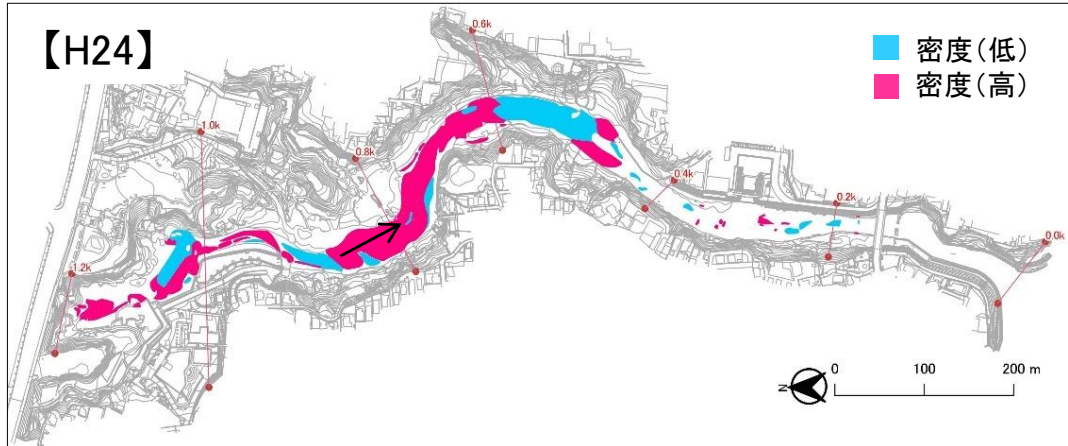
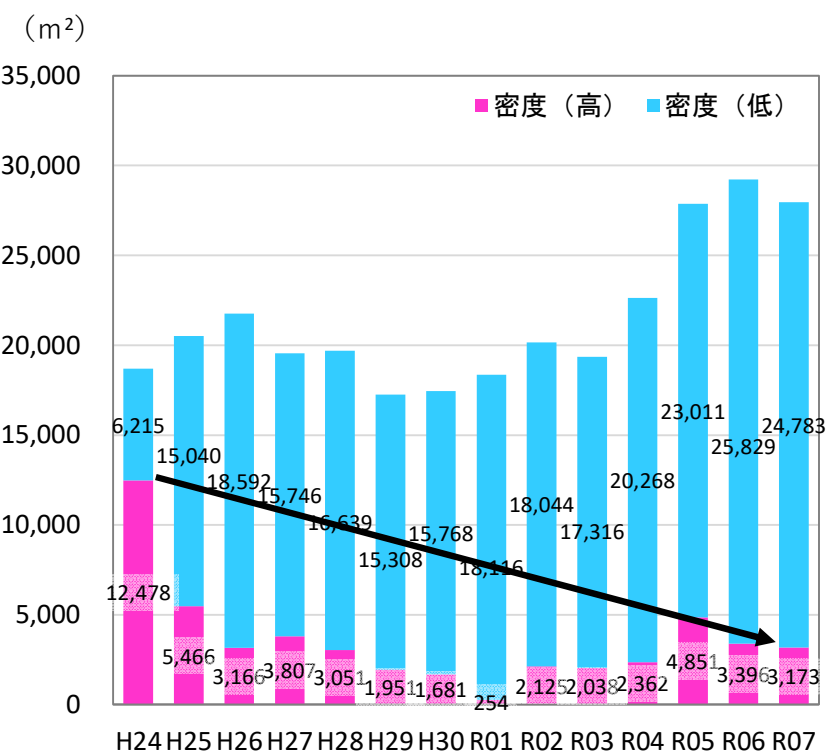
〈自然再生の目標〉 柿田川全体での外来種生育密度低減に努める。

〈目標に対する柿田川の現状〉
 開始当初(H24)と比較して、密度(高)の生育面積は減少した。
 一方、密度(低)の生育面積は近年増加しており、特に下流域で分布が拡大している。

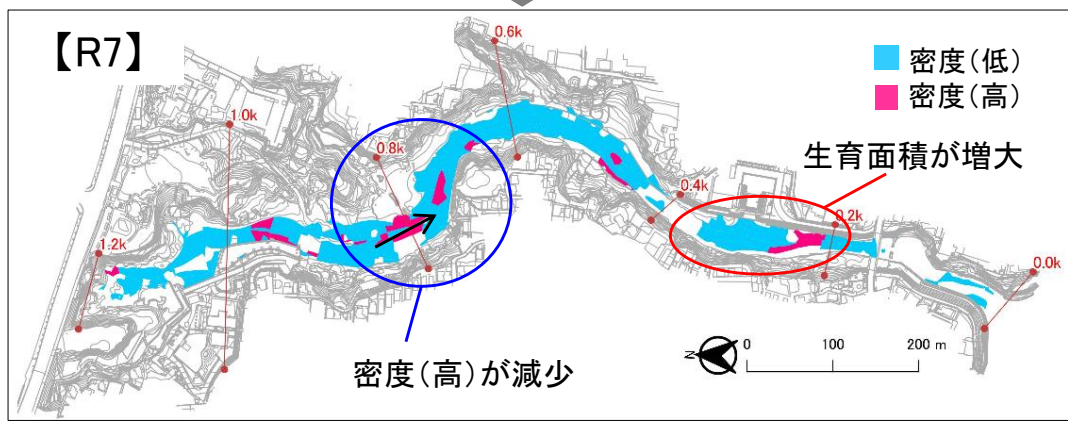
〈今後の進め方〉 三者協働駆除及び集中駆除の連携のもと、戦略的な駆除を進める。

密度(高) 75%減

オオカワヂシャの生育面積



生育面積
 密度(低) 6,215m²
 +
 密度(高) 12,478m²
 合計面積 18,693m²



生育面積
 密度(低) 24,783m²
 +
 密度(高) 3,173m²
 合計面積 27,956m²

2.2 オオカワヂシャの駆除(集中駆除)

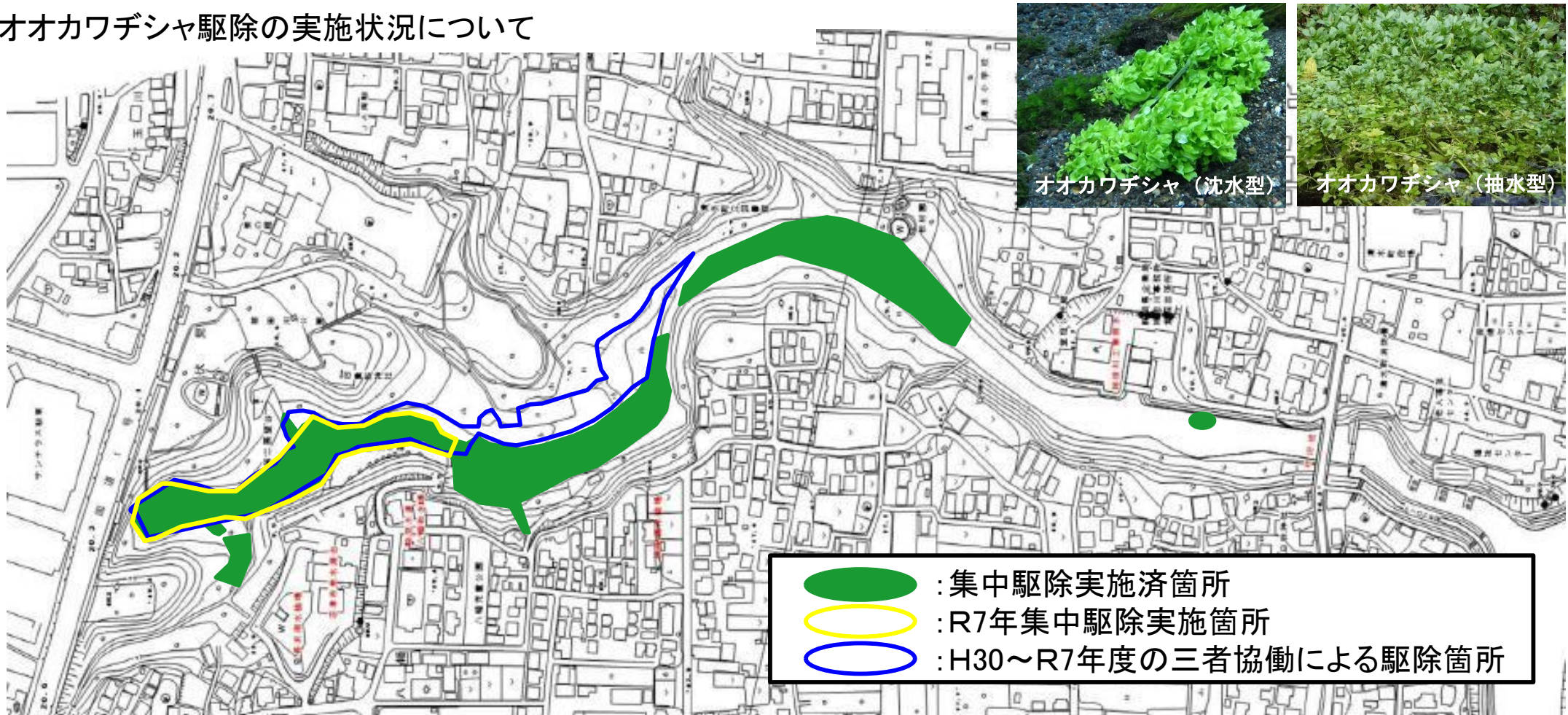
<自然再生の目標>柿田川全体での外来種生育密度低減に努める。

<目標に対する柿田川の現状>

今年度(R7年度)のオオカワヂシャの集中駆除は、6月に源頭部周辺にて実施をした。

<今後の進め方> 三者協働駆除及び集中駆除の連携のもと、戦略的な駆除を進める。

オオカワヂシャ駆除の実施状況について

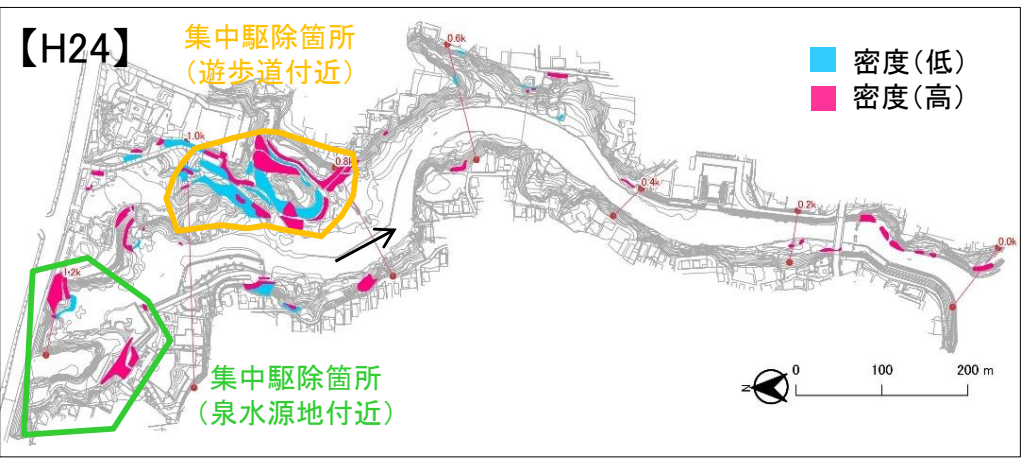
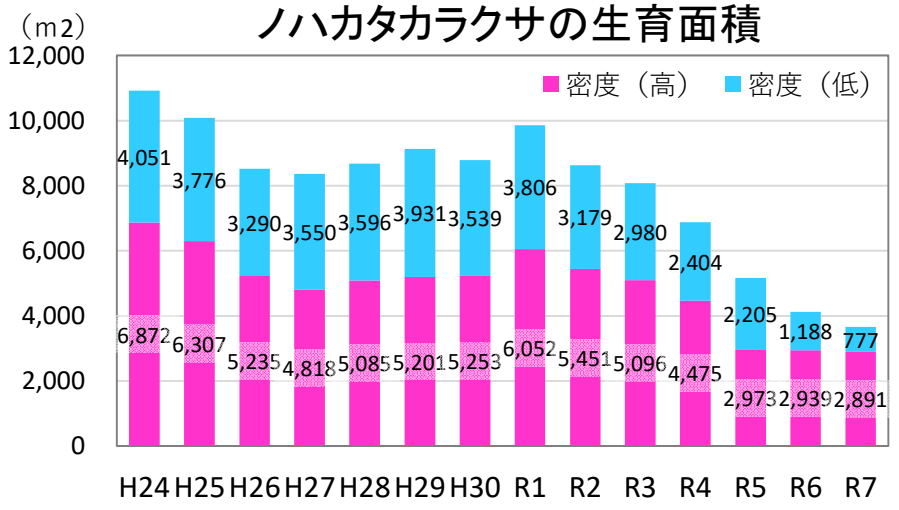


2.3 ノハタカラクサの駆除(生育面積)

<自然再生の目標> 在来植物への影響が大きい箇所における外来植物を減少させる。

<目標に対する柿田川の現状>
 徐々にではあるが、密度(高)の生育面積、密度(高)+密度(低)の生育面積とも減少している。

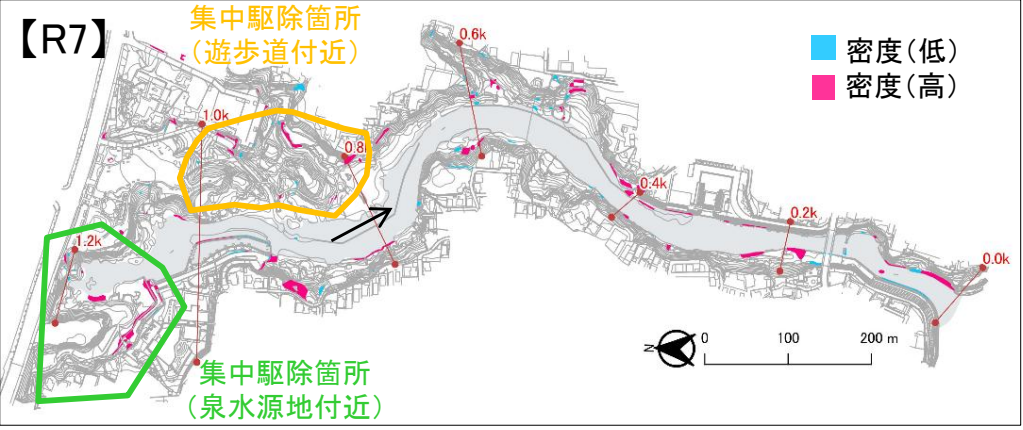
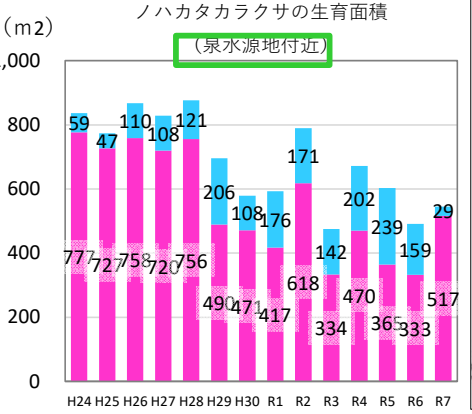
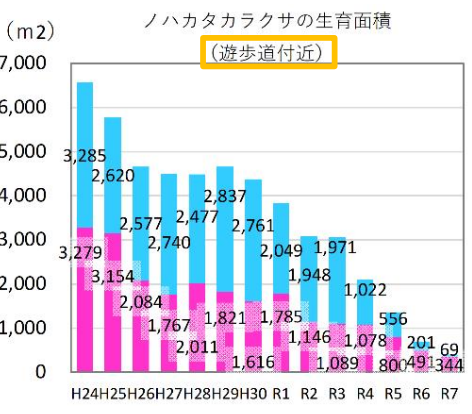
<今後の進め方> 三者協働駆除及び集中駆除の連携のもと、戦略的な駆除を進める。



生育面積

密度(低)	4,051m ²
+	
密度(高)	6,872m ²
合計面積	10,923m ²

集中駆除を実施した箇所のノハタカラクサ生育面積



生育面積

密度(低)	777m ²
+	
密度(高)	2,891m ²
合計面積	3,668m ²

2.3 ノハカタカラクサの駆除（集中駆除）

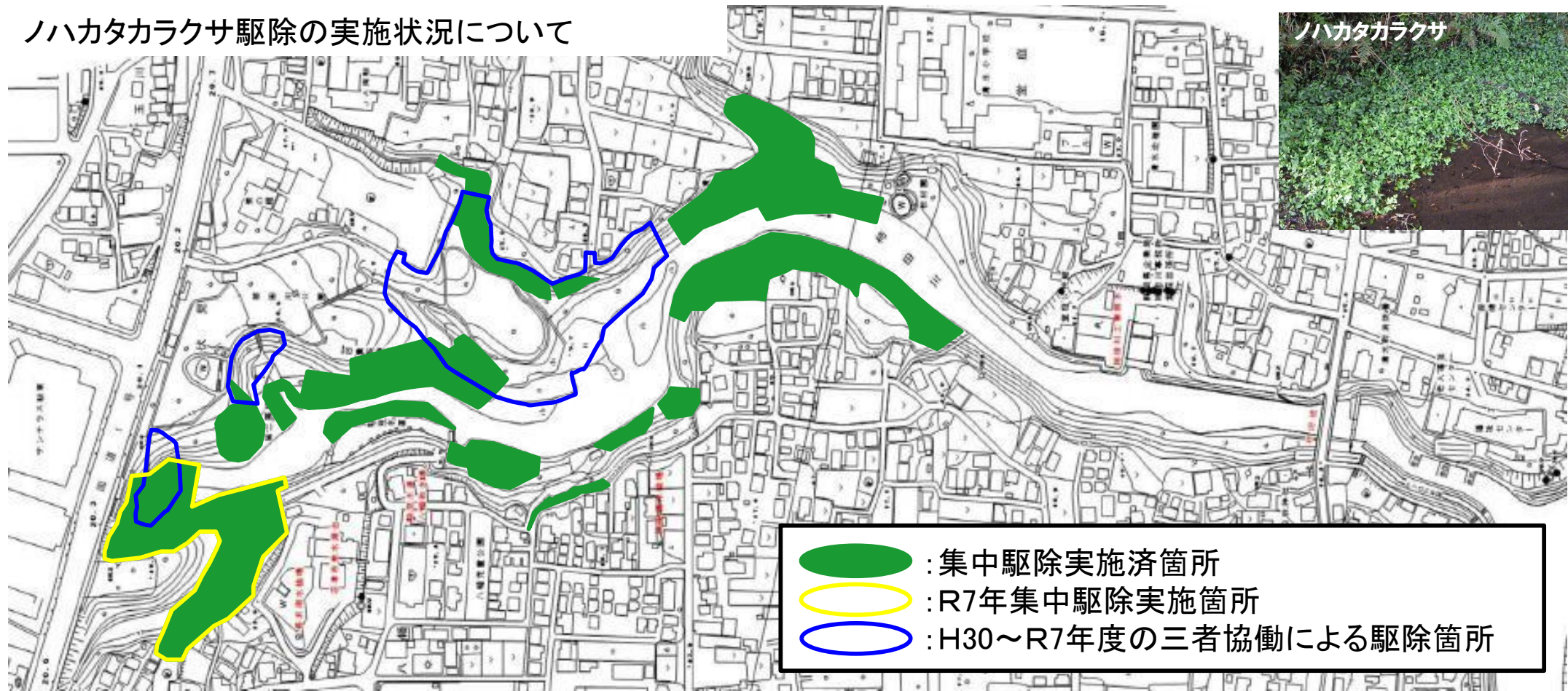
＜自然再生の目標＞柿田川全体での外来種生育密度低減に努める。

＜目標に対する柿田川の現状＞

今年度（R7年度）のノハカタカラクサの集中駆除は、10～11月に源頭部周辺にて実施をした。

＜今後の進め方＞三者協働駆除及び集中駆除の連携のもと、戦略的な駆除を進める。

ノハカタカラクサ駆除の実施状況について



2.4 ナガエツルノゲイトウの除去

<自然再生の目標>柿田川全体での外来種生育密度低減に努める。

<目標に対する柿田川の現状>
 特定外来生物であるナガエツルノゲイトウの侵入をR4に初めて確認し、除去作業を実施。R6も同箇所でも再生を確認した。

- <ナガエツルノゲイトウの概要>
- ・「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律施行令」に基づき指定された特定外来生物。
 - ・水草であるが乾燥に強く、陸上にも生育し、旺盛な繁殖力から生態系や取水施設等に影響を与える。
 - ・折れやすい茎からも再生し、茎断片が流れ着いた先で定着する恐れがあるため、流域全体の対策が求められる。



被害の例



水生在来植物との競合

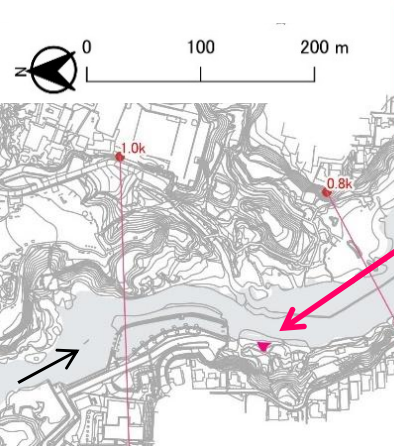


取水・排水の障害
小郡市HP



流下阻害
佐賀市HP

柿田川においてR4. 8. 28に初確認→同年12月に緊急的除去作業実施→以降5回の除去作業を実施
 柿田川全川では、ナガエツルノゲイトウは初確認した左岸0.9k付近の1箇所のみで生育しており、分布は拡大していない。



R4初確認時ナガエツルノゲイトウの生育範囲：約55m²

幅約15 m
奥行約6.5 m



R6ナガエツルノゲイトウの生育範囲：約22m²

11m×2mの範囲にナガエツルノゲイトウが疎らに生育

幅約11 m
奥行約2.0 m

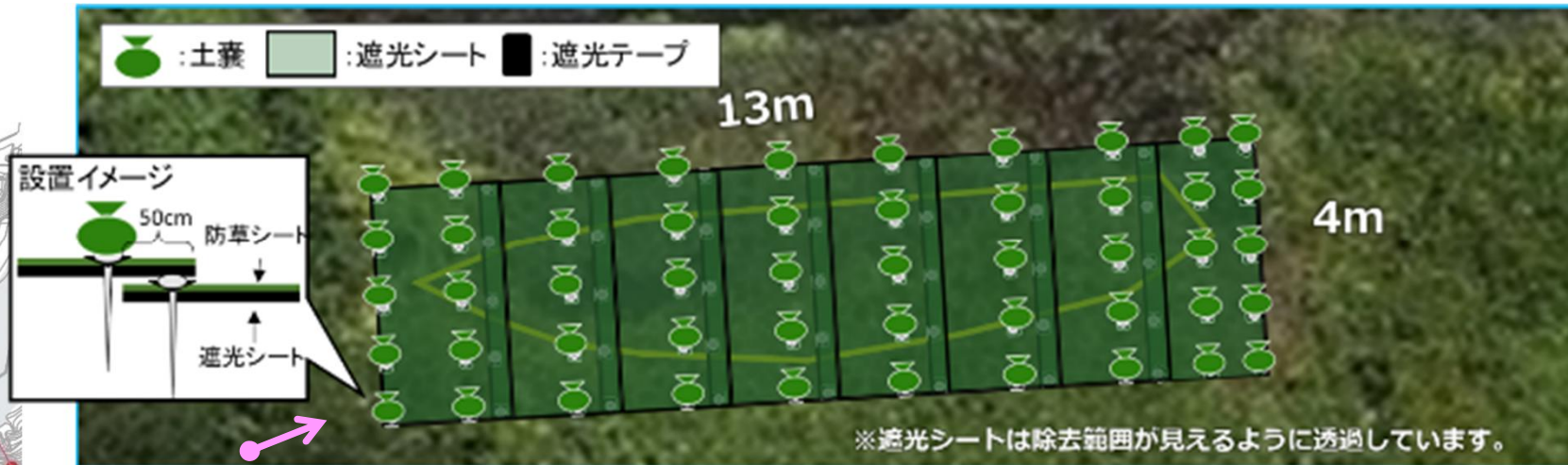
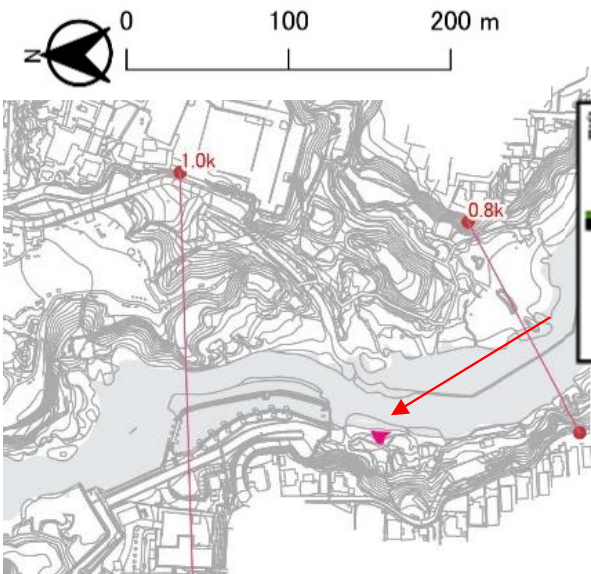
2.4 ナガエツルノゲイトウの除去

〈自然再生の目標〉柿田川全体での外来種生育密度低減に努める。

〈令和7年2月17日 遮光シート敷設〉 ※ [redacted] より助言

- ・令和7年2月17日にナガエツルノゲイトウ駆除専用の遮光シートを敷設し、ナガエツルノゲイトウは一時消失した。
- ・5月～11月に毎月、遮光シートの剥がれやナガエツルノゲイトウの再生を確認するが、再生は確認されなかった。
- ・5月、10月には柿田川全川でのナガエツルノゲイトウの分布の調査を実施したが新たな株は確認されなかった。
- ・シート上にツルヨシ、オオカワヂシャ、ツリフネソウ等の植生が被覆している。

生育箇所



〈今後の進め方〉

R8、9年まで設置を継続し、モニタリングを継続しながらナガエツルノゲイトウの根絶を目指す。

今後のモニタリングのため、シート上のツルヨシ等の植生は適宜除去する。



2.5 在来種の再生(試験目的・試験位置)

〈再生試験の目的〉

- ・ミシマバイカモは、移植手法そのものがある程度確立されたため、R6同様、実際にオオカワヂシャが繁茂している箇所において駆除及びミシマバイカモの移植を行い、外来種から在来種への置換を試みる。
- ・ナガエミクリは、R5年度試験において、年を越した定着に初めて成功したため、R5移植箇所の近傍において移植を行い、その定着要因を確かめる。

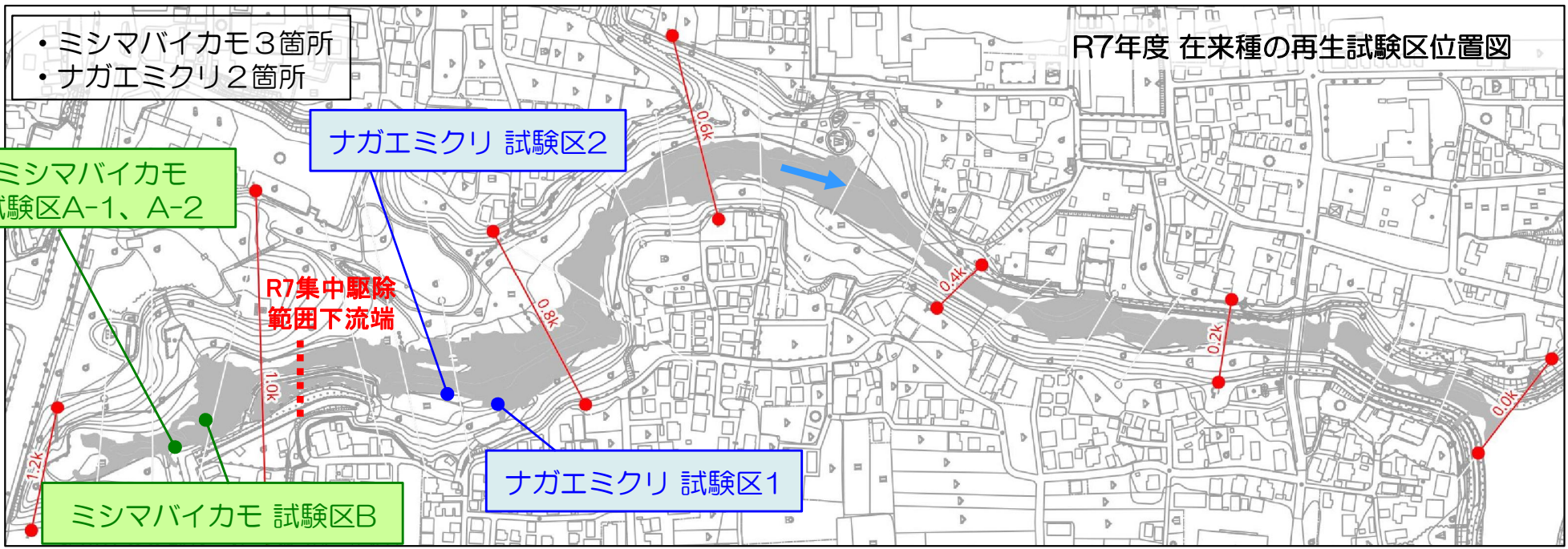
【試験位置の選定基準】

ミシマバイカモ：

- ・維持管理工事の受注業者による集中駆除によって、オオカワヂシャの駆除が完了した範囲
- ・オオカワヂシャが高密度に生育していた箇所
- ・ポテンシャルマップにおいてミシマバイカモの生育確率が高く予測されている箇所
- ・安全に作業が実施できる水深、流速の箇所

ナガエミクリ：

- ・R5移植試験で定着が確認された移植地点の近傍の箇所
- ・細かな河床材料、周囲の抽水植物が侵入できない水深が確保されている箇所
- ・安全に作業が実施できる水深、流速の箇所



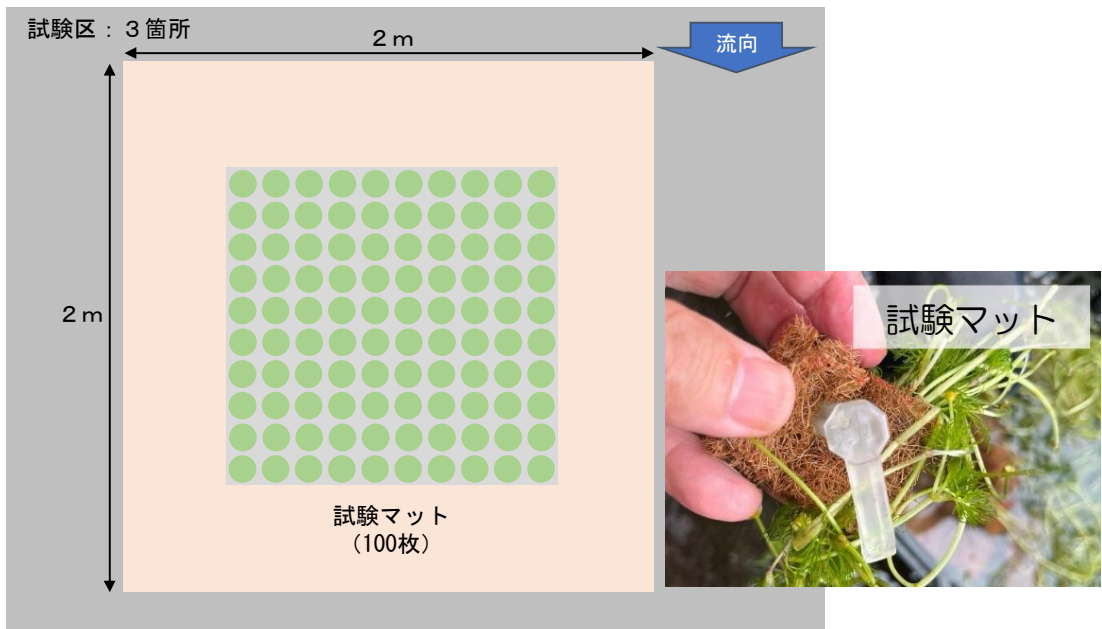
R7年度 在来種の再生試験区位置図

2.5 在来種の再生(試験方法)

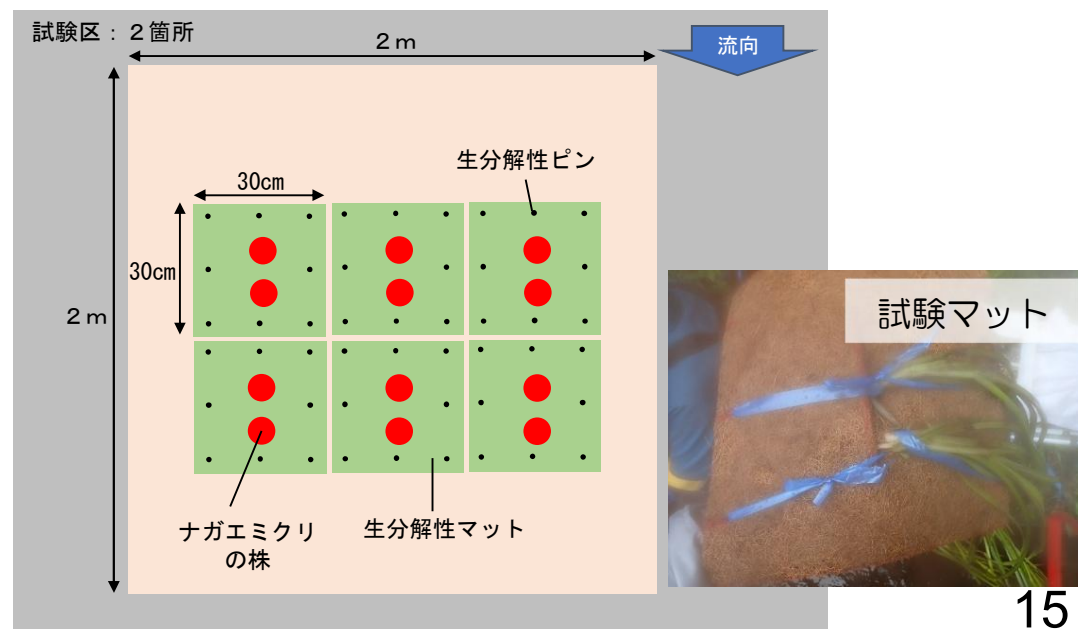
- 〈再生試験方法〉
- ・試験区はいずれも2m×2mとし、オオカワヂシャを取り除いた後にジヨレンで軽く河床をかき寄せて移植を行った。
 - ・ミシマバイカモ及びナガエミクリともに、生分解性マット及び生分解性ピンで河床に固定する従来の手法で移植した。
 - ・ミシマバイカモは各試験区約100マット、ナガエミクリは各試験区6マット(12株)を配置した。
 - ・ナガエミクリは、過年度に得られた知見から、根に新芽が生じている株のみを移植に供した。



ミシマバイカモの移植イメージ



ナガエミクリの移植イメージ

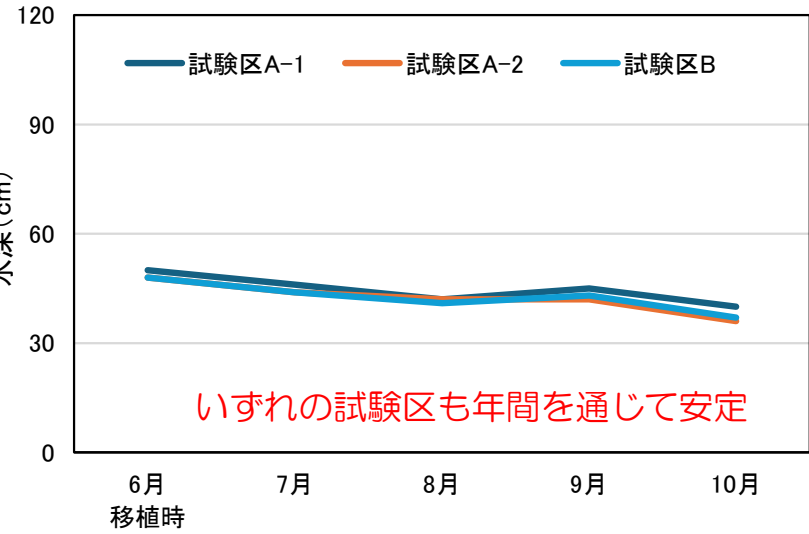


2.5 在来種の再生(試験結果_物理環境)

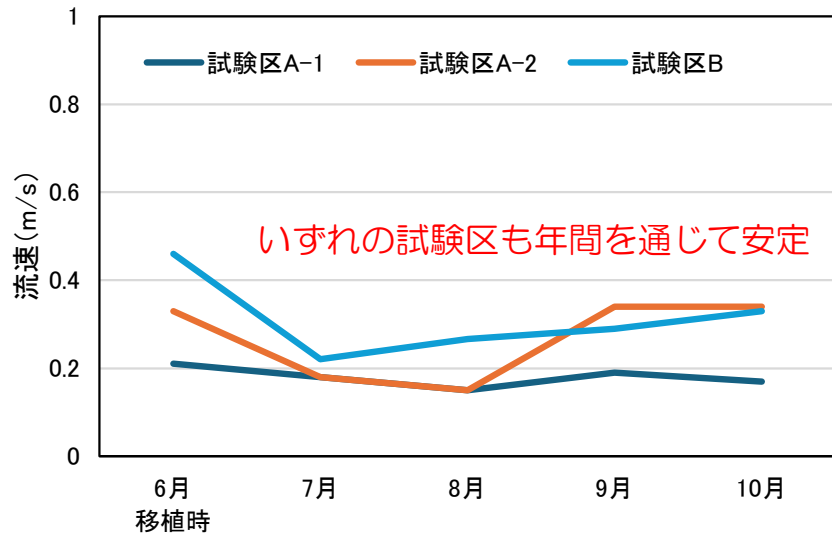
〈試験区の物理環境〉
 ・物理環境は、水深、流速ともにいずれの試験区も年間を通して概ね安定していた。
 ・ナガエミクリ試験区2では、試験区上流でのホザキノフサモの繁茂により、8月以降流速が低下した。

ミシマバイカモ

水深

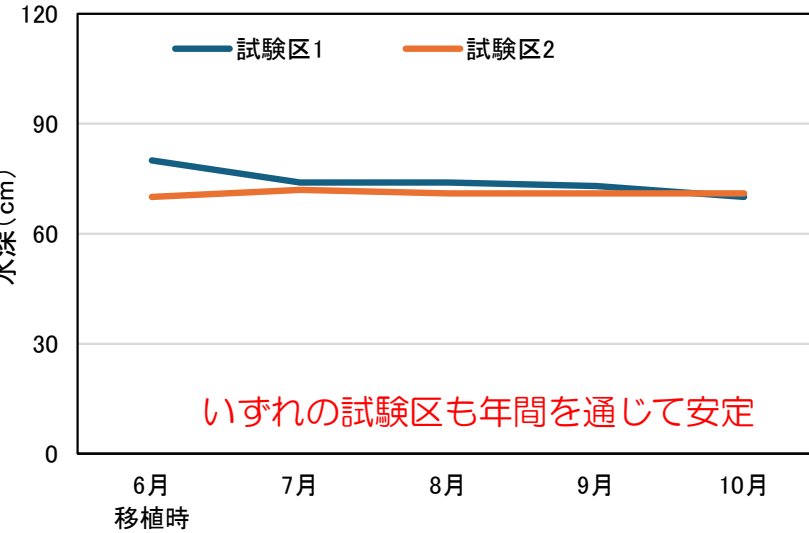


流速

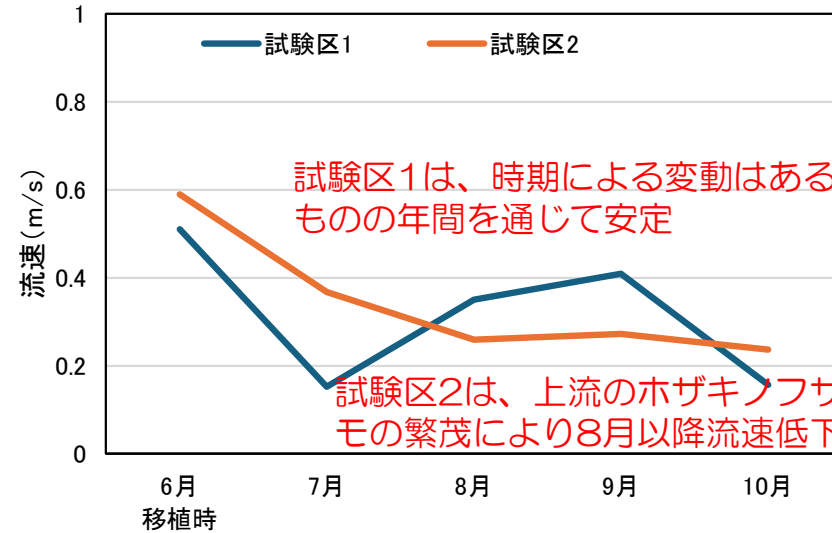


ナガエミクリ

水深



流速



試験区2
ホザキノフサモ被覆状況(8月)



2.5 在来種の再生(試験結果_ミシマバイカモ)

<ミシマバイカモ再生試験結果>

- ・試験区A-1及びA-2では、7月時点で個体が大幅に消失・減少したが、10月にはわずかな再生が確認された。
- ・試験区Bでは、7月頃まで個体は概ね維持されていたものの、その後は次第に密度が低下する傾向が見られた。

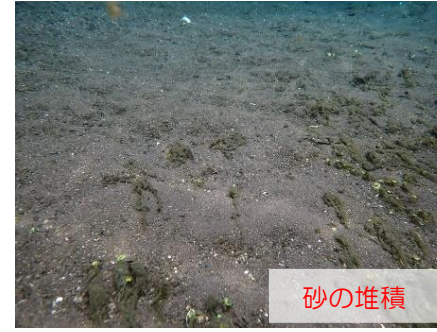
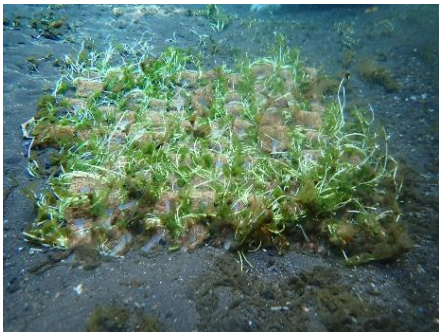
6月(移植直後)

7月(移植1か月後)

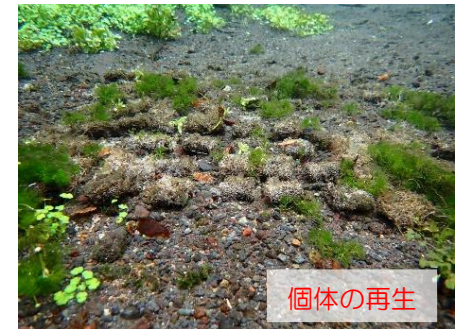
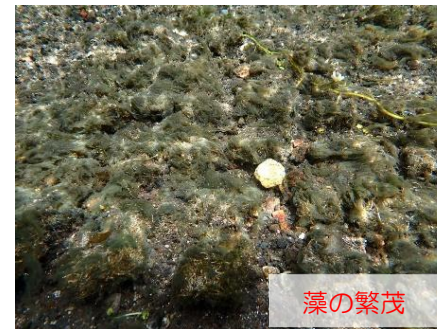
8月(移植2か月後)

10月(移植4か月後)

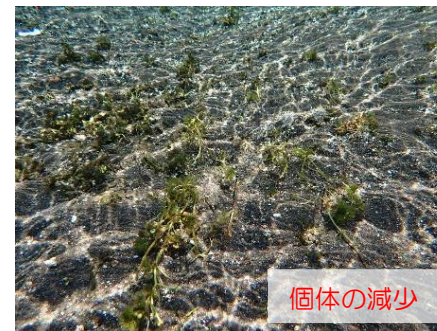
試験区
A-1



試験区
A-2



試験区
B

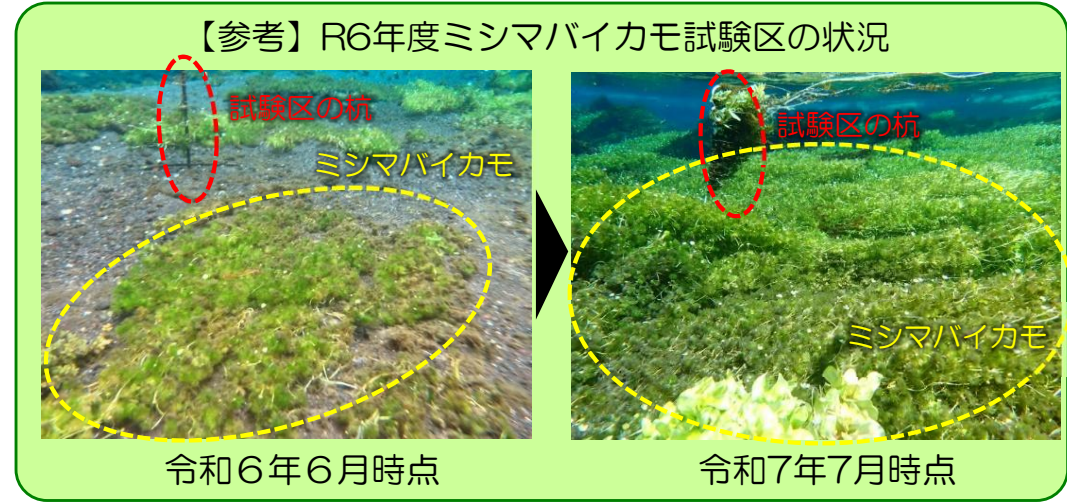
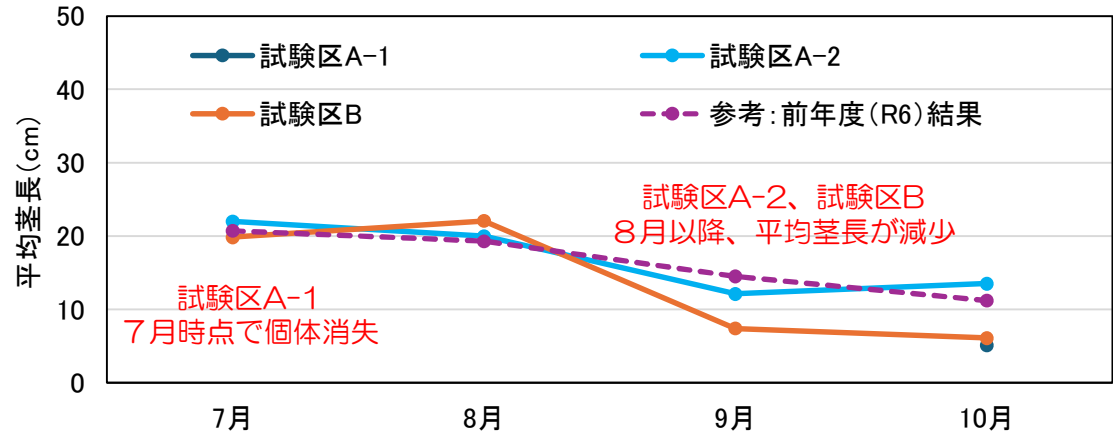


2.5 在来種の再生(試験結果_ミシマバイカモ)

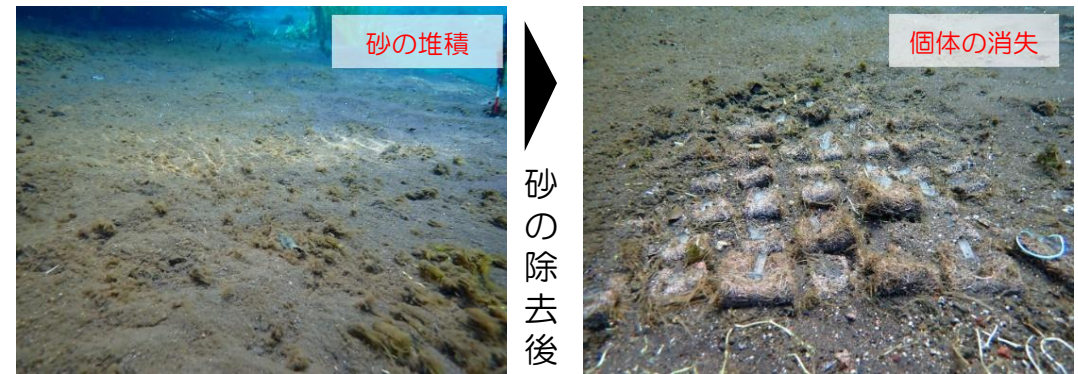
<ミシマバイカモ再生試験結果>

- ・試験区A-1では、7月時点で個体が消失し、原因として砂の堆積が考えられた。その後8月、9月も確認されなかったが、10月に一部個体の再生が確認された。
- ・試験区A-2及び試験区Bでは、8月まで平均茎長は維持されていたものの、その後10月にかけて減少傾向となった。これは昨年度試験と同様の傾向であり、外来種であるオオカワヂシャの侵入が抑制されれば、次年度まで生残する可能性があると考えられる。
- ・今年度試験においても、春季の移植前に河床のかき寄せを行ったことで、周辺と比較してオオカワヂシャの侵入が軽微に抑えられている状況が確認された。

ミシマバイカモの各試験区での平均茎長の変化



■試験区A-1における砂の堆積・除去後の確認状況(令和7年7月)



<今後の進め方>

- ・引き続き生育状況のモニタリング及びデータの蓄積を行い、ミシマバイカモの生育適地条件の解明に向けた検討を進める。

2.5 在来種の再生(試験結果_ナガエミクリ)

〈ナガエミクリ再生試験結果〉

- ・両試験区ともに7月に子株の発生が確認された。試験区1では一部の範囲で子株数の増加が見られたが、試験区2では増加に至らなかった。
- ・両試験区ともに7月以降、親株は減少し、10月にはすべての親株が消失した。

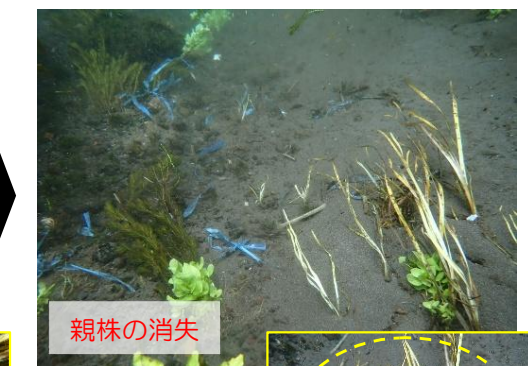
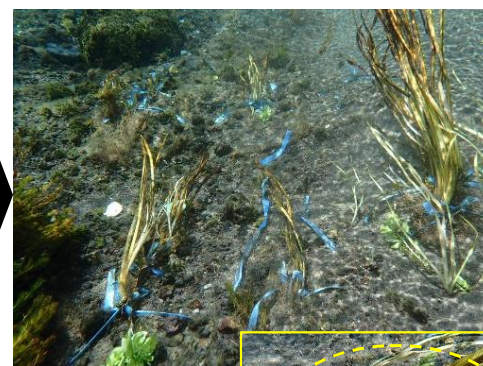
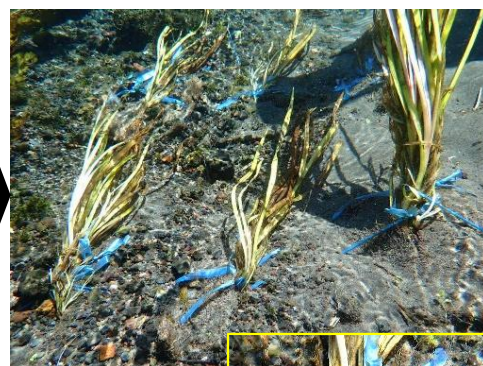
6月(移植直後)

7月(移植1か月後)

8月(移植2か月後)

10月(移植4か月後)

試験区
1



試験区
2

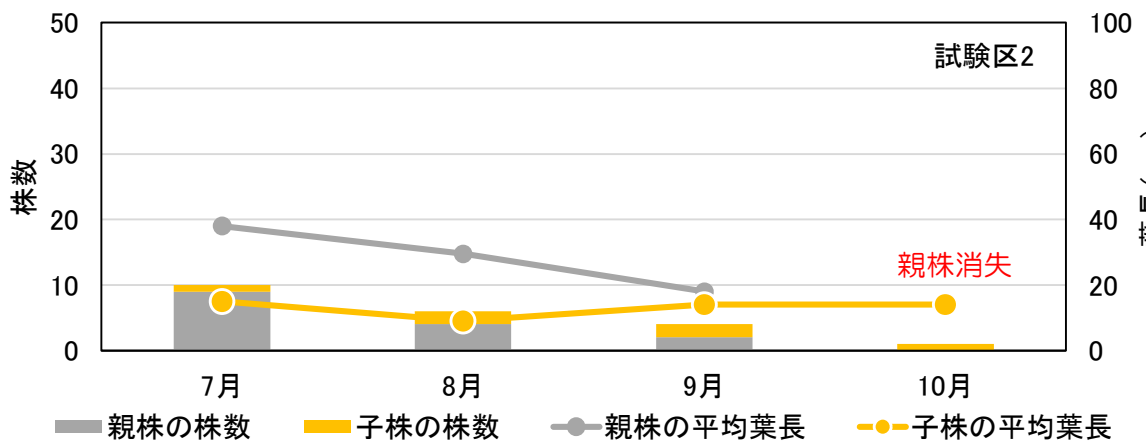
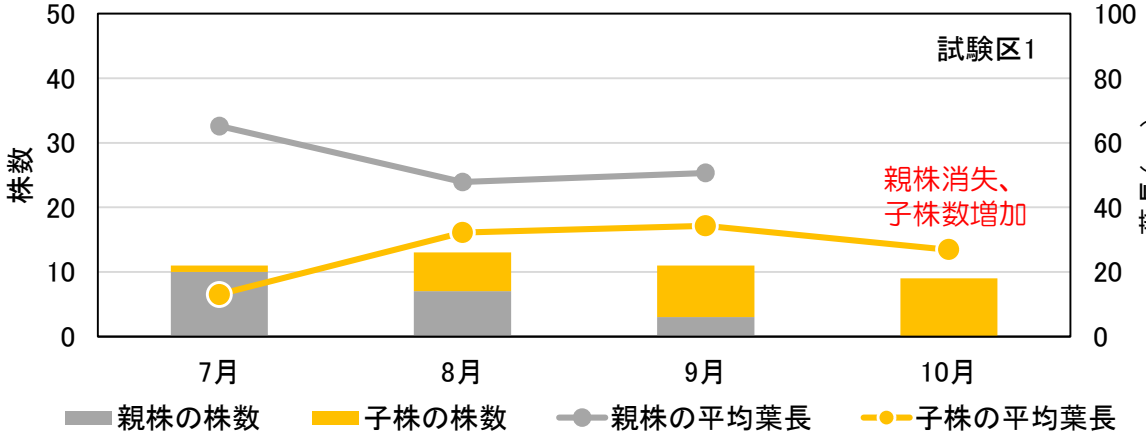


2.5 在来種の再生(試験結果_ナガエミクリ)

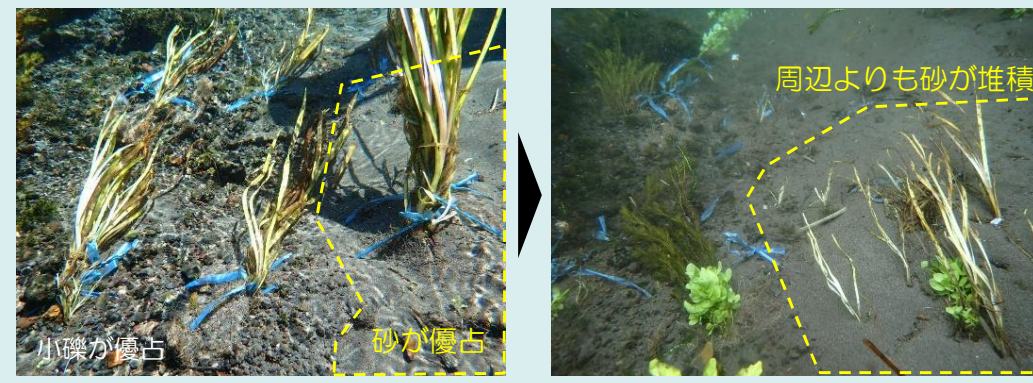
<ナガエミクリ再生試験結果>

- ・両試験区において、7月以降は親株の株数及び葉長ともに減少傾向となり、10月にはすべての親株が消失した。
- ・試験区1では、子株の株数は増加し、葉長も維持されていた。当該区で子株が維持された範囲は、周辺と比較して河床材料の粒径が細かく、さらに砂が堆積傾向であった。
- ・今年度は、令和5年度の移植個体が定着に成功した箇所の近傍で移植を実施したが、具体的な定着要因の解明には至らなかった。

ナガエミクリの各試験区での株数及び葉長の変化



試験区1の子株が維持された箇所の河床変化



令和7年7月(移植1か月後)

令和7年10月(移植4か月後)

<今後の進め方>

- ・経年的に移植後の生育が思わしくなく、有効な移植手法の確立に向けた方向性が見いだせていない状況にあるため、移植については一旦休止し、学識者へのヒアリング等を行い、移植方法自体を見直す。

3. (整備メニュー3)

柿田川にとって最適な河畔林の状態の検討、及び
河川管理上支障となるものや、住民からの要望箇所
で生態や環境に影響のない範囲での対策の実施

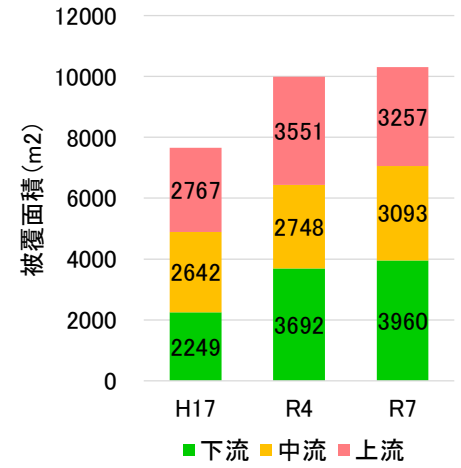
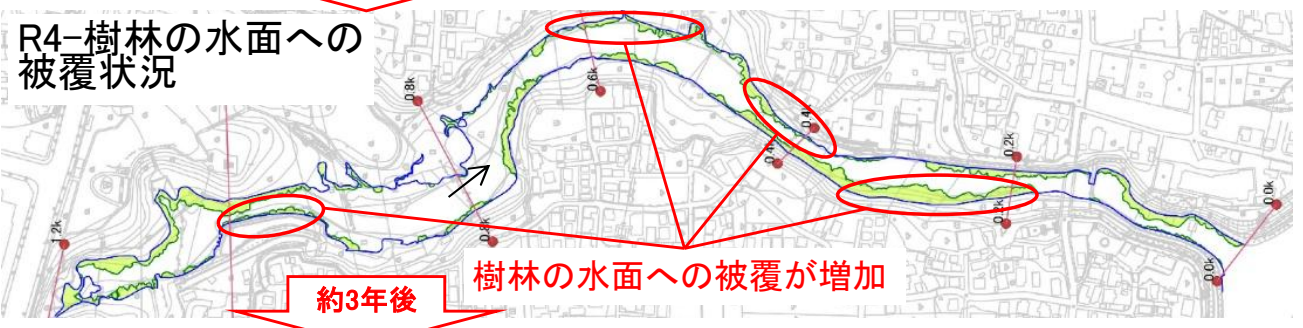
(整備メニュー6)

河岸洗掘及び法面侵食箇所の経過観察

3.1 河畔林の水面被覆状況調査

〈自然再生の目標〉
 柿田川にとって最適な河畔林の状態を調査・検討し、必要に応じて対策を講じる。
 対策は、生態環境に影響のない範囲で、河川管理上の視点も含める。

〈目標に対する柿田川の現状〉
 樹木の水面への被覆増加は日照条件の変化による在来動植物への影響が懸念される。
 UAV撮影により被覆を確認したが、R4年と比較して顕著な変化は確認されなかった。



R7樹木の水面への被覆面積は、R4と比べ大きな増加は確認されない。

〈今後の進め方〉
 UAV等を用いて樹木の水面への被覆状況の監視を継続し、著しい増加箇所については必要な調査や対策を進める。

3.2 河畔林の状態把握

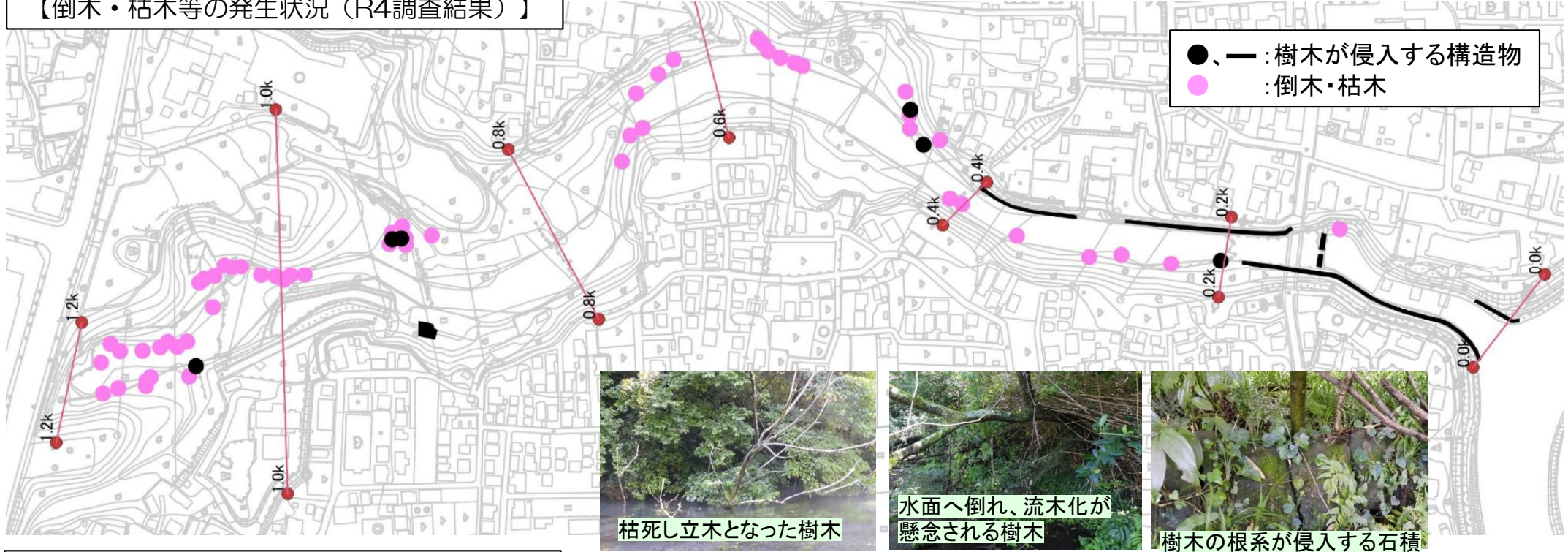
<自然再生の目標>

柿田川にとって最適な河畔林の状態を調査・検討し、必要に応じて対策を講じる。
対策は、生態環境に影響のない範囲で、河川管理上の視点も含める。

<目標に対する柿田川の現状>

- ・倒木、枯木等の発生や河川構造物への樹木の侵入が確認されている(R4調査結果)。
- ・河畔林の更新の停滞や過密化が示唆されており、下層に光が届きにくい状態となっている(H29調査結果)。

【倒木・枯木等の発生状況 (R4調査結果)】



【河畔林内部の状態 (H29調査結果)】

- ・近20年間で樹種組成の変化がほとんどなく、低木も少ないことから、河畔林の更新はほとんど行われていないと推察される。
- ・林内の開空度は10%以下、相対照度は6%以下と、下層に光が届きにくい状況。
- ・竹林は、適正本数80本/100m²に対して152本/m²と過密状態。

3.3 河畔林の維持の取組と法面侵食による土砂流出監視

<自然再生の目標>

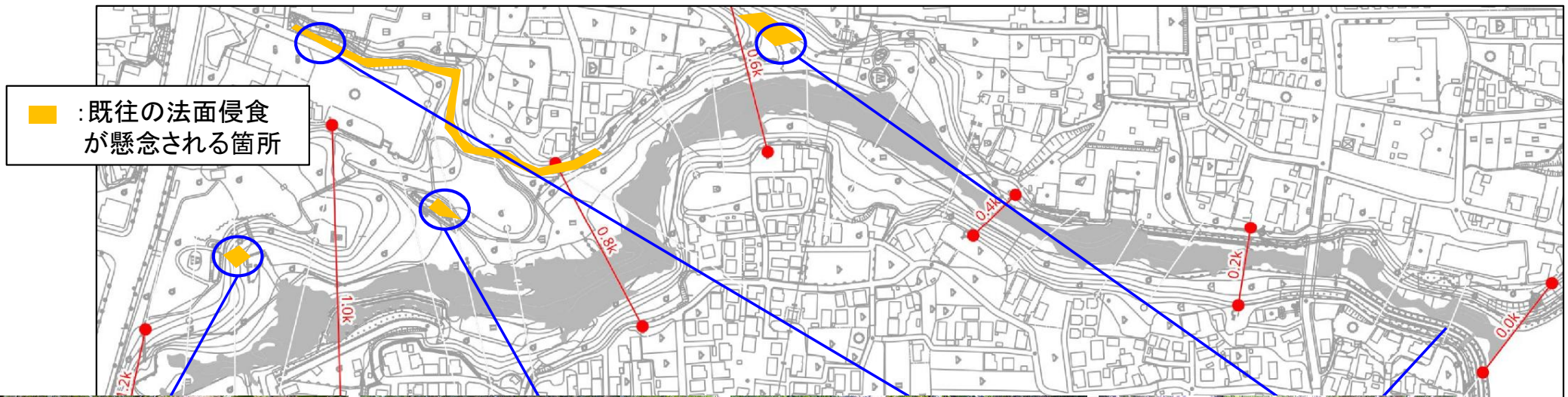
柿田川にとって最適な河畔林の状態を調査・検討し、必要に応じて対策を講じる。
対策は、生態環境に影響のない範囲で、河川管理上の視点も含める。

<目標に対する柿田川の現状>

法面侵食が懸念される箇所からの土砂流出等の影響は確認されなかった。

<今後の進め方>

・今後も状況変化を監視するとともに、地元関係者とも協議し、必要な対策を進める。



土砂流出は見られない(11月)



土砂流出は見られない(11月)



土砂流出は見られない(11月)



土砂流出は見られない(11月)

4. (モニタリング)

柿田川に特徴的な動物の生息状況の把握

4.1 アオハダトンボ等のモニタリング

<自然再生の目標>柿田川の象徴的な水生昆虫について、継続的な調査により生息状況を監視する。

- ・R2より3月～11月にかけて月に1～2回、柿田川みどりのトラストとの協働により、トンボ類の生息状況を把握している。
- ・柿田川ではアサヒナカワトンボが安定して多く確認されている。またマルタンヤンマが本調査で初めて確認された。
- ・アオハダトンボはR4、R5、R6調査でされておらず、R7調査でも確認されていない。

R2～R7柿田川のトンボ類調査結果一覧

※目視確認直後飛翔し同定不可能な個体は除いた

	カワトンボ科				イトトンボ科			アオイトトンボ科	サナエトンボ科			オニヤンマ科	ヤンマ科				トンボ科										合計	種数		
	アオハダトンボ	ハグロトンボ	アサヒナカワトンボ(橙色型)	アサヒナカワトンボ(無色型)	ミヤマカワトンボ	アジアイトトンボ	アオモンイトトンボ	キイトトンボ	オオアオイトトンボ	ヤマサナエ	ダビドサナエ	コオニヤンマ	オニヤンマ	コシボソヤンマ	カトリヤンマ	ギンヤンマ	ミルンヤンマ	マルタンヤンマ	ハラビロトンボ	シオカラトンボ	オオシオカラトンボ	ショウジョウトンボ	ナツアカネ	アキアカネ	ウスバキトンボ	コノシメトンボ			チョウトンボ	ネキトンボ
R2 合計	8	54	104	134	0	0	1451	0	0	0	0	1	17	1	0	20		1	13	1	3	22	0	20	0	0	0	0	1850	14
R3 合計	1	123	175	373	2	0	431	0	1	1	0	32	20	1	1	71		0	29	8	0	21	3	55	0	2	0	1350	18	
R4 合計	0	70	547	567	2	4	380	0	0	24	7	7	25	1	0	48		0	28	2	0	13	3	68	0	3	2	1801	18	
R5 合計	0	162	574	540	0	0	609	0	0	21	18	7	22	1	0	78	1	1	31	8	2	2	12	65	0	0	0	2154	18	
R6 合計	0	243	564	573	0	0	381	1	0	2	5	7	5	1	0	68	0	1	19	19	0	32	3	261	1	1	0	2187	18	
R7	4/16		23	33						3	21																		80	3
	5/19		182	123						10	6					2													323	4
	6/16		1	146	131							1	3			2													284	5
	7/22		4	18	66			83			1	7	12			21				1	4		54		1		3		275	12
	8/31		13	11	34			61					1	13		25	9	1		36		1			37		3		245	12
	9/16		34	19	53			254					1	3		37				13	1	8			142		11		576	11
	10/20		64	67	67			52								1							20		1				272	6
11/17		14	59	53			4							1								11						142	5	
R7 合計	0	130	525	560	0	0	454	0	0	14	27	8	17	17	0	88	9	1	0	50	5	9	85	0	181	0	17	0	2197	17

R7 柿田川におけるトンボ類の確認個体数

■ 4/16 ■ 5/19 ■ 6/16 ■ 7/22 ■ 8/31 ■ 9/16 ■ 10/20 ■ 11/17



4.1 アオハダトンボ等のモニタリング

<自然再生の目標>柿田川の象徴的な水生昆虫について、継続的な調査により生息状況を監視する。

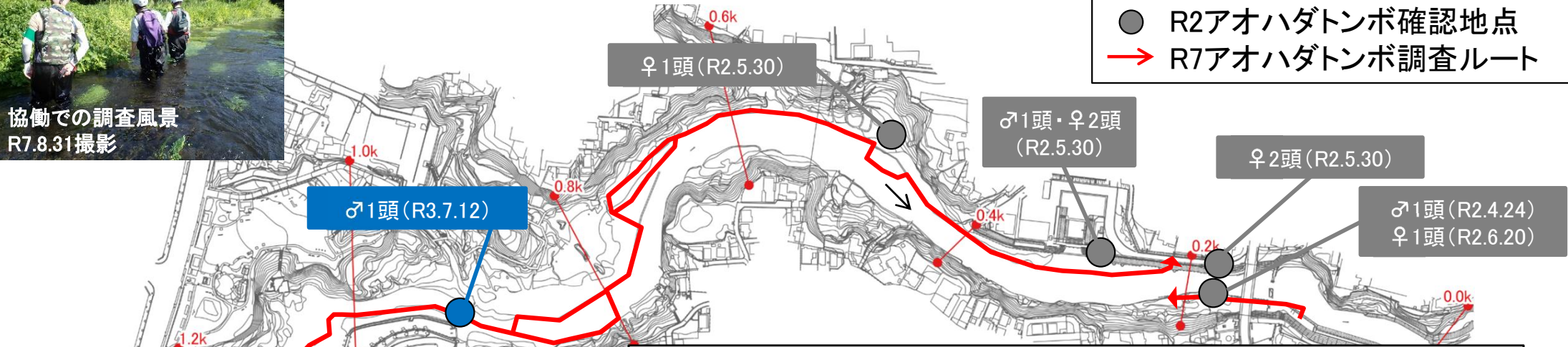
<目標に対する柿田川の現状>
 柿田川の象徴的な貴重種であるアオハダトンボの調査では、H12年から著しい減少傾向にあり、R4年から確認されていない。

<今後の進め方>今後も継続的な柿田川みどりのトラストとの協働により、生息状況を把握する。



R7年度 アオハダトンボ等調査結果

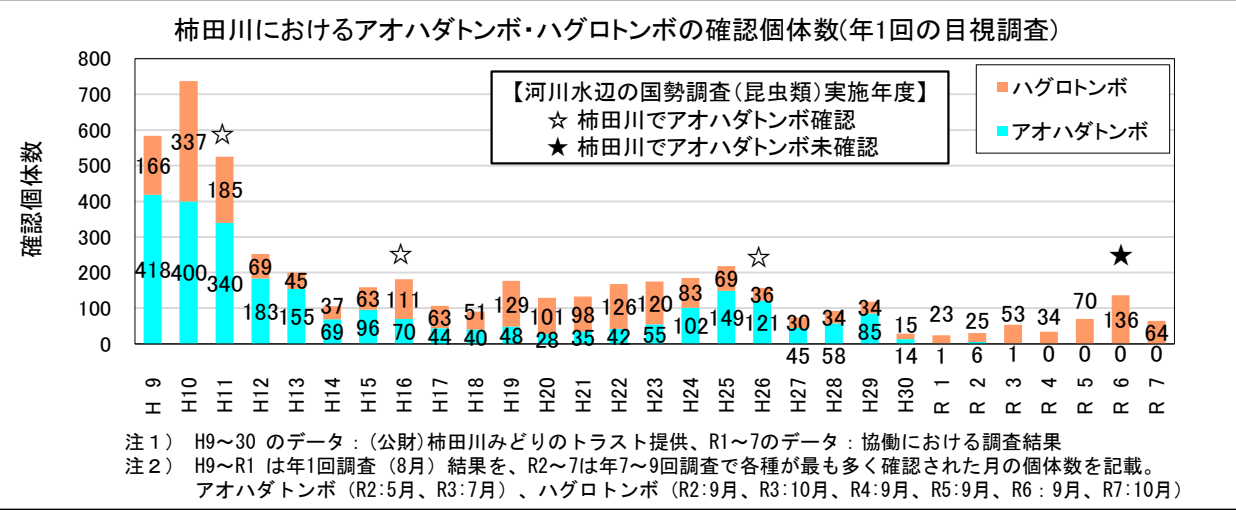
- R3アオハダトンボ確認地点
- R2アオハダトンボ確認地点
- R7アオハダトンボ調査ルート



アオハダトンボ等調査の実施状況

調査日	
R7.4.16	R7.8.31
R7.5.19	R7.9.16
R7.6.16	R7.10.20
R7.7.22	R7.11.17

全調査、柿田川みどりのトラストと国土交通省との協働による調査

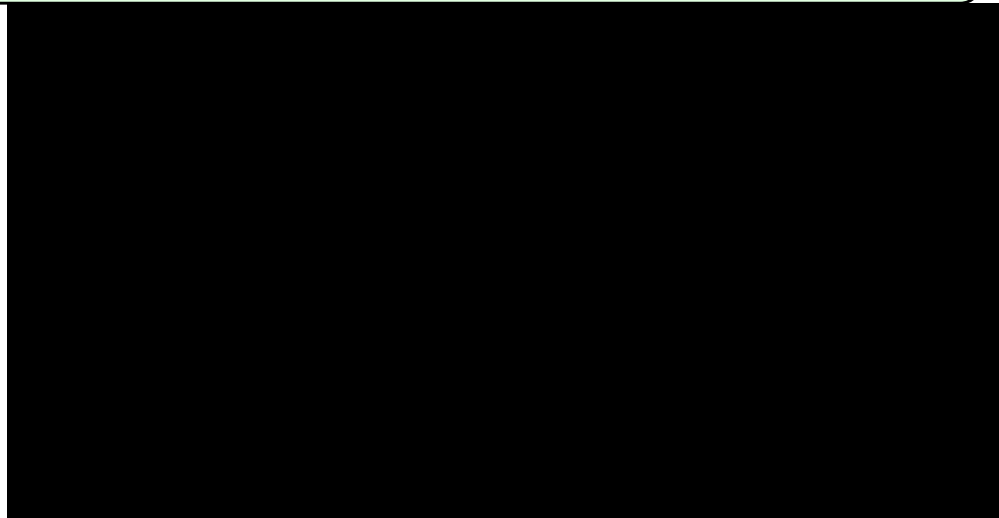
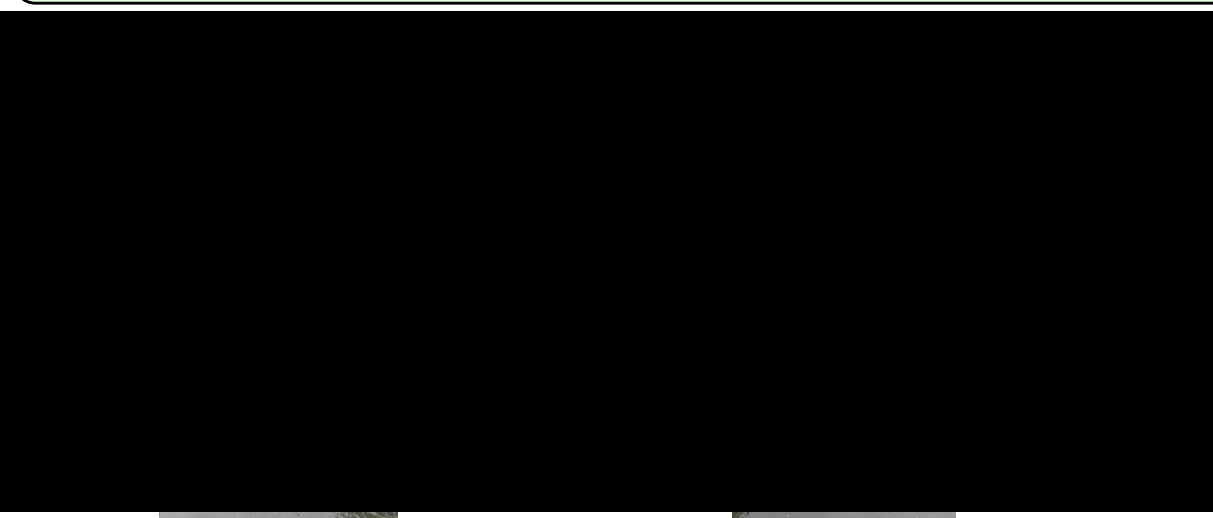


4.1 アオハダトンボ等のモニタリング (アオハダトンボの産卵環境確認)

<目標に対する柿田川の現状【第17回検討会(R3年度)】>
 アオハダトンボは確認個体数が減少しており、柿田川での繁殖が行われていないと推察される。

<今後の進め方【第17回検討会(R3年度)】>
 ・柿田川近傍のアオハダトンボの生息河川で各環境要素を把握することで、柿田川での減少要因絞り込みに努め、柿田川での再生可能性を検討する。→R4年度から調査(データを充実させるべくR7年度で4年目)

<調査地点の選定及びヤゴの生息状況調査結果>
 ・R6にアオハダトンボの産卵が確認された [redacted] 及び [redacted] で現地
 の確認とヤゴの調査を実施した。
 ・両地点でカワトンボ科のヤゴと、一部アオハダトンボの成虫が確認されたため、産卵場調査地点に選定した。
 ・両地点ともR6同様ツルヨシが優占し、オランダガラシやセリ、スゲ類がツルヨシ群落内に一部生育していた。
 ・両地点とも河床は巨石から砂までさまざま、生息環境はR6から大きな変化は見られなかった。



ヤゴの確認数一覧([redacted])

ヤゴ生息調査 確認種名	[redacted]		
	①	②	③
ミヤマカワトンボ	0	0	0
カワトンボ科の一種	2	2	0
その他	3	16	17

・水深 25~38cm
 ・流速 2~38cm/s

ヤゴの確認数一覧([redacted])

ヤゴ生息調査 確認種名	[redacted]			
	①	②	③	④
ミヤマカワトンボ	0	1	0	0
カワトンボ科の一種	0	1	1	2
その他	2	10	3	7

・水深 29~48cm
 ・流速 1~19cm/s

4.1 アオハダトンボ等のモニタリング (アオハダトンボの産卵環境確認)

<産卵環境調査>

当初、[]で5月上旬・2回の調査を予定したが、1回目の個体数が少ないことから、調査時期を遅らせ、[]1回、[]3回に変更し、産卵行動を極力確認できるように変更した。その結果、第3回目の[]の調査でアオハダトンボの産卵行動が確認された。

【主な生息環境情報】

- ・平均約70cm程度の高さ(10~150cm)に定位 …R4~6では40cm程度の高さが中心。
- ・水際中心に定位(ツルヨシ、枯れ枝) …R4~6と同様。
- ・明瞭な開放水面が存在し、周辺に樹林は少ないが密な高茎草本群落が存在。…R4~6と同様
- ・[]のみでアオハダトンボ確認 …R6と比較して両河川ともアオハダトンボが少ない。

アオハダトンボの確認数一覧

調査地点	[]	[]
第1回(5/8、9)	♂0頭、♀0頭	♂1頭、♀2頭 計3頭
第2回(5/15、16)	5/15 15時点0頭	♂4頭、♀3頭 計7頭
第3回(5/21)	-	♂4頭、♀3頭 計7頭
備考	アオハダトンボ確認無し	第3回(5/21)に産卵確認

<調査方法>

- ・7時~13時で1時間おきにアオハダトンボを確認(高さ、水面からの距離、定位物等記録)。
- ・産卵が見込まれるアオハダトンボの群れが見られた場合は、産卵まで継続観察。
- ・産卵箇所の水深、流速、産卵基質等の物理環境の情報を記録。



個体撮影例

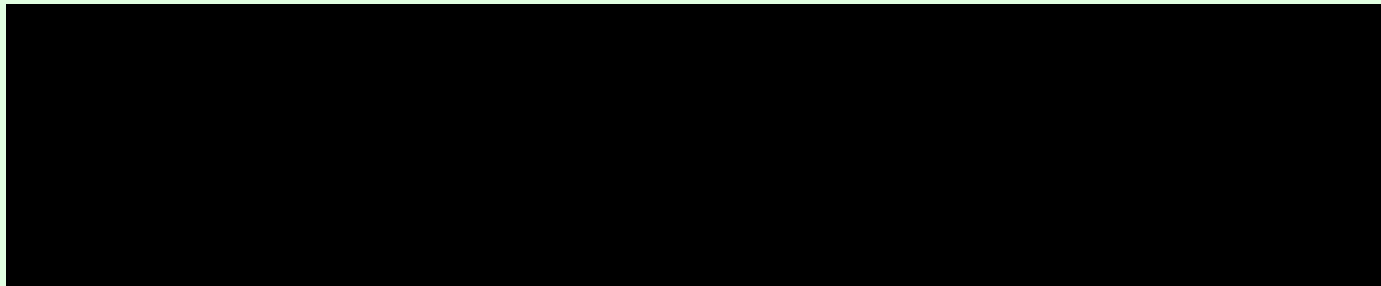


個体確認箇所例

4.1 アオハダトンボ等のモニタリング (アオハダトンボの産卵環境確認)

<アオハダトンボの産卵行動の情報>

- ・産卵確認時期は5/21とやや遅く確認 (R5調査:最速5/17、R6調査:最速5/8)
- ・産卵確認時は概ね11時~12時、水温18~19℃、気温22~23℃。
- ・産卵場所付近は開放的な空間の水際植生。



アオハダトンボ産卵確認箇所の日照 (R7) アオハダトンボ非確認箇所の日照 (R4)

- ・産卵基質は水際のツルヨシから伸びた水面直下の匍匐茎 (R6はセリ、オランダガラシにも産卵)
- ・産卵基質付近の表面流速は約0.5~16cm/s。
- ・流速帯はヤゴが生息していた場所の概ね数値内。
- ・近縁種のミヤマカワトンボがアオハダトンボと概ね同位置で産卵



4.1 アオハダトンボ等のモニタリング (アオハダトンボの産卵環境確認)

【4か年のアオハダトンボ調査結果総括】

- ・産卵時期は5月上旬から5月下旬だが、年によってアオハダトンボの発生時期、産卵時期は異なる。
- ・日中は開放水面に水平に張り出す植物や枯草、礫等に定位する傾向がある。
- ・日中は高さが概ね80cmより低い箇所に定位する傾向がある。
- ・水際の広大な高茎草本群落(ツルヨシ、ヨシ等)がアオハダトンボの生息に適している可能性がある。
- ・開放水面の水際から伸びた水面に漂う葉や根茎など(ツルヨシ、オランダガラシ、セリ)での産卵が確認された。
- ・産卵は表面流速が約0~26cm/sと緩やかな流れの中で行われた。
- ・定位する環境や産卵場の条件は、他のカワトンボ科も類似している。



< 柿田川でのアオハダトンボの生息環境について(R5提示内容と同様) >

- ・アオハダトンボの生息・繁殖に適した環境は「開放水面を含む」「産卵可能な水際植生」「産卵可能な流速帯」が組み合わさった箇所であると考えられる。
- ・近年は河畔林の水面への張り出しの増加が見られ、水際の開放水面が減少したことでアオハダトンボの生息・繁殖に適した環境が減少していると考えられる。

< 柿田川でのアオハダトンボの生息環境の再生の方向性(案) >

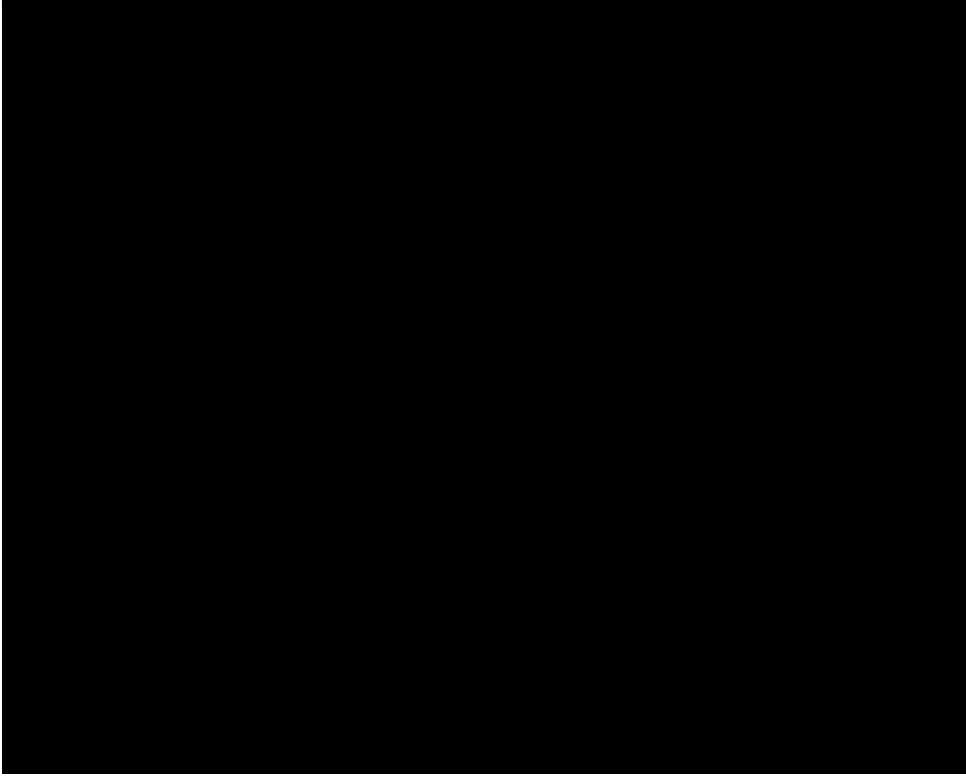
- ・河畔林の枝打ち、水際植生の移植、水際の地盤切り下げによりアオハダトンボの生息環境を再生する。
- ・柿田川では出水による攪乱の影響が少なく、再生箇所の維持が可能と考えられる。
- ・ハグロトンボも減少傾向が見られることから、他のカワトンボ科も利用する環境を再生することが望ましい。

4.1 アオハダトンボ等のモニタリング (アオハダトンボの産卵環境確認)

【参考：環境DNA調査の試行】
 第19回検討会(R6年度)において、柿田川でのアオハダトンボの生息の有無をより詳細に把握するため、環境DNA調査の実施に向けて検討を進めることとなった。そのため、アオハダトンボの環境DNA調査に向けて以下を試行した。

①アオハダトンボの個体(個体の多い[])を採取し、分析用のプライマーを作成。
 →プライマー開発、環境DNA分析は [] に協力を依頼。

②アオハダトンボの生息が近年確認されている河川([])で環境DNA調査(採水)を実施し、アオハダトンボが検出可能か確認



環境DNA調査によるアオハダトンボの検出状況一覧

調査日	検出有無	全採水量	検出有無	全採水量	検出有無	全採水量	検出有無	全採水量
5月8日	未検出	2L	検出	2L	-	-	-	-
7月22日	未検出	2L	未検出	2L	-	-	-	-
8月31日	未検出	2L	検出	2L	-	-	-	-
9月16日	未検出	2L	未検出	2L	-	-	-	-
10月20日	未検出	2L	未検出	9L	-	-	-	-
11月17日	未検出	2L	検出	9L	-	-	-	-
11月28日	-	-	-	-	未検出	10L	○	10L

- : 調査未実施

アオハダトンボ環境DNA調査試行 調査地点

<環境DNA調査によるアオハダトンボの捕捉>

- ・ []にて、環境DNAによるアオハダトンボの生息の把握に成功した。
- ・ []は未検出で、[]でも検出時期に偏りがあった。

→アオハダトンボのヤゴのDNAが少なく検出難度が高いことが示唆された。
 →今後学識者協力のもと、調査精度向上を図る。

5. (整備メニュー4)

堆積土砂の撤去及びツルヨシの駆除

5.1 堆積土砂の撤去及びツルヨシの駆除に関するモニタリング



＜自然再生の目標＞生態系とのバランスを考慮して、土砂撤去範囲・ツルヨシ除去範囲を検討し対策を進める。

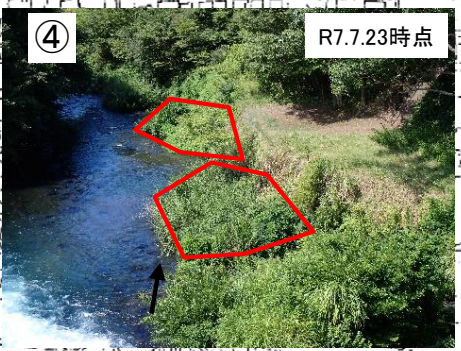
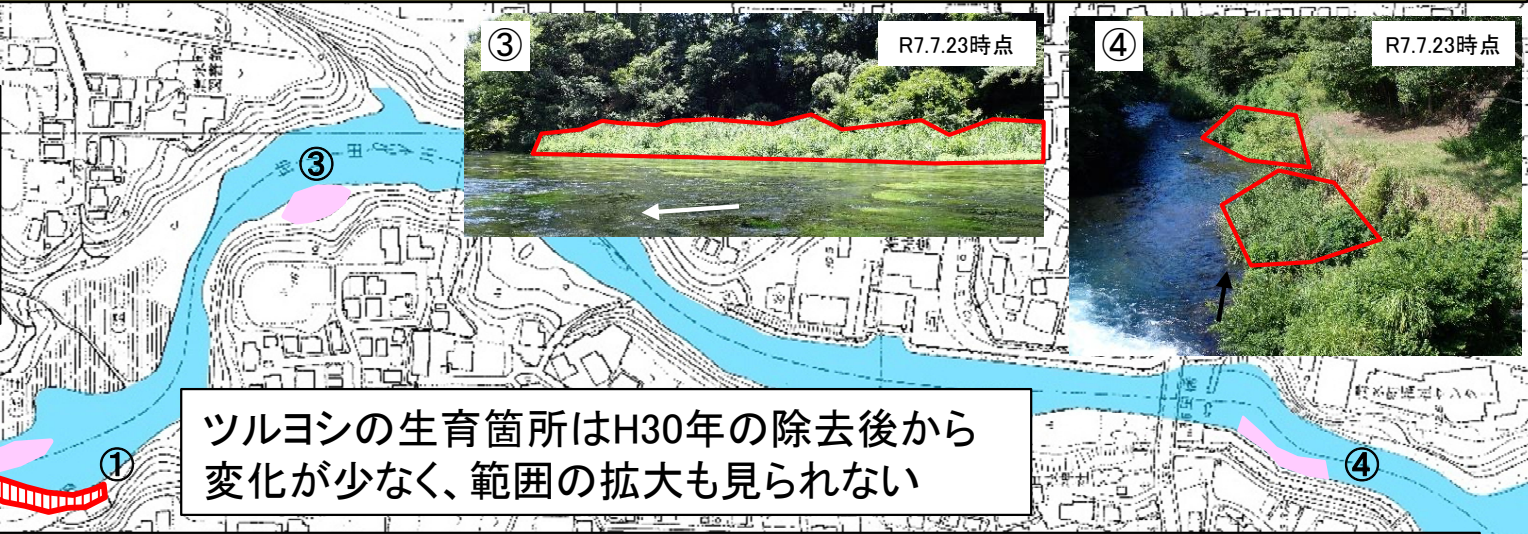
＜目標に対する柿田川の現状＞
土砂とツルヨシのH30撤去箇所には、ツルヨシの大規模な再繁茂は見られない。
ツルヨシ除去計画予定箇所での面積拡大も確認しておらず、面積を維持している。

＜今後の進め方＞
引き続き、土砂堆積状況やツルヨシの生育箇所をモニタリングし、アオハダトンボ等の生物の生息・生育・繁殖環境を考慮しながら、土砂やツルヨシの適正な管理を行う。

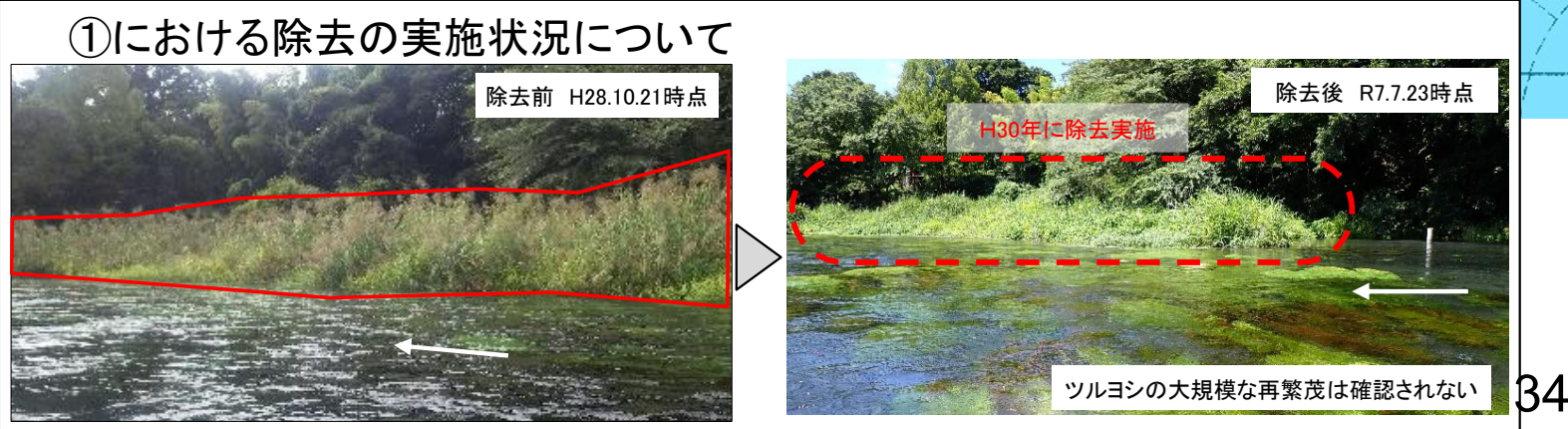
堆積土砂撤去・ツルヨシ除去計画

凡例：除去の状況

-  : 実施済み箇所 (H30)
-  : 計画予定箇所



①における除去の実施状況について



除去前 H28.10.21時点

除去後 R7.7.23時点

H30年に除去実施

ツルヨシの大規模な再繁茂は確認されない

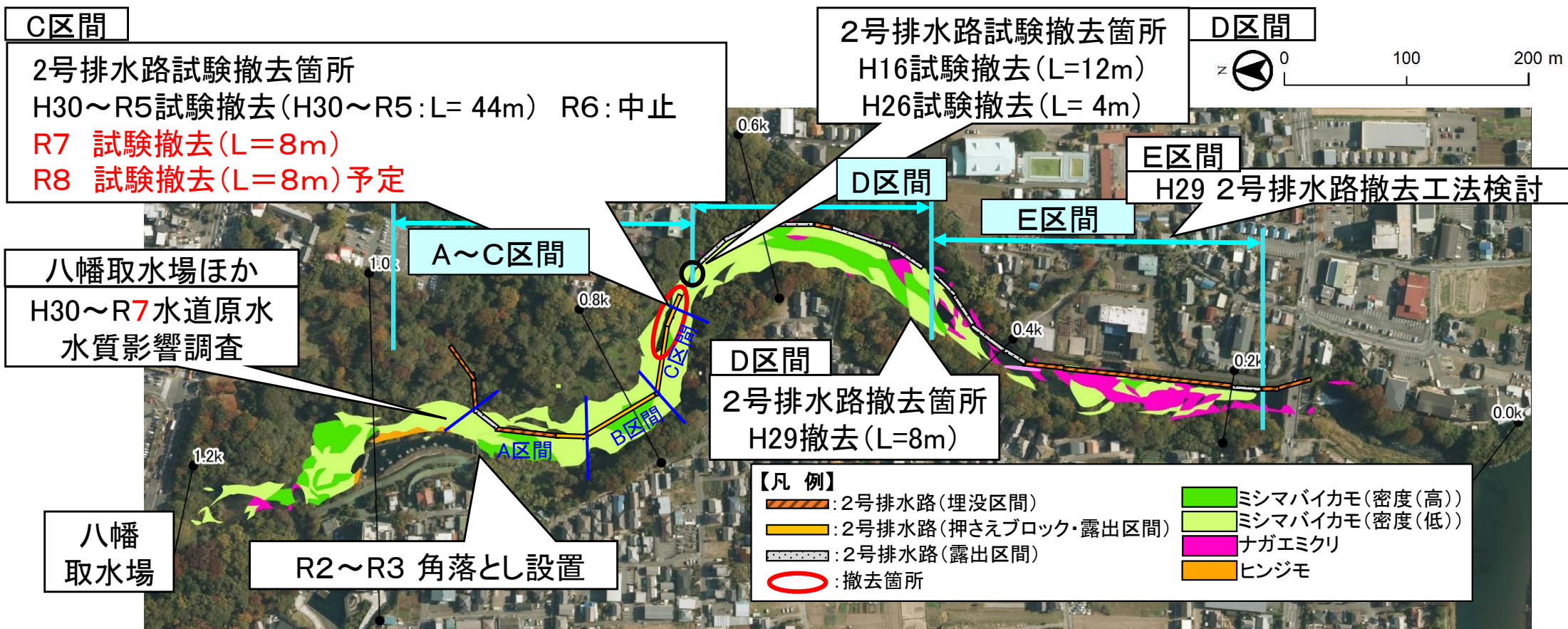
6. (整備メニュー5)

2号排水路撤去のための影響評価及び方針検討

6.1 2号排水路の撤去実績とモニタリング調査

<自然再生の目標>取水や生態系への影響の少ない箇所から撤去する。

<今後の進め方>
 ・取水や生態系への影響の少ない箇所から撤去を実施することとし、引き続きモニタリング調査を継続しながら、令和7年度撤去箇所から上流に向かって撤去を進めていく。



- 優先順位
- C区間: 影響を十分に調査したうえで下水道の整備後に撤去する箇所の中で、AB区間に先行して撤去を進める箇所
 - A～B区間: 影響を十分に調査したうえで下水道の整備後に撤去する箇所
 - D区間の教材園下流部 L=20m: 現地踏査の結果、撤去可能と判断された箇所
 - E区間: 撤去方法を十分に検討し、取水や環境への影響の少ない箇所から、先行して撤去を進める箇所

6.1 2号排水路の撤去実績とモニタリング調査

R7年C区間撤去箇所(L=8m)について・・・R7年(撤去前後)の状況

- ・中止したR6年撤去予定箇所を対象としてR7年9月に撤去が実施された。
- ・撤去前は周辺にミシマバイカモ・ナガエミクリなどの貴重種の生育はなく、ヤナギモやホザキノフサモが生育していた。
- ・撤去直後もヤナギモやホザキノフサモが維持され、周辺植生の大幅な減少は確認していない。
- ・次年度も同地点の経過を観察し、植生変化や顕著な礫の流出の有無を確認する。

<R7年 2号排水路撤去箇所>

□: 植生(ヤナギモ等)



R7年2号排水路撤去箇所の下流滞筋等から2号排水路を望む
(国土交通省のモニタリング調査結果)

6.2 下水道整備計画(清水町)

<自然再生の目標> 柿田川の良好な水質を維持するため、下水道整備を進め、汚水の流入を低減する。

<目標に対する柿田川の現状> R6年度までに下水道に接続可能な戸数の割合が92.4%となった。

<今後の進め方>下水道に接続している戸数の割合(R6年度:85.9%)を引き上げる。

下水道の整備状況～柿田川を排水先とする地域における下水道整備状況～
(町道24号線と県道下土狩徳倉沼津港線の間地域を想定)

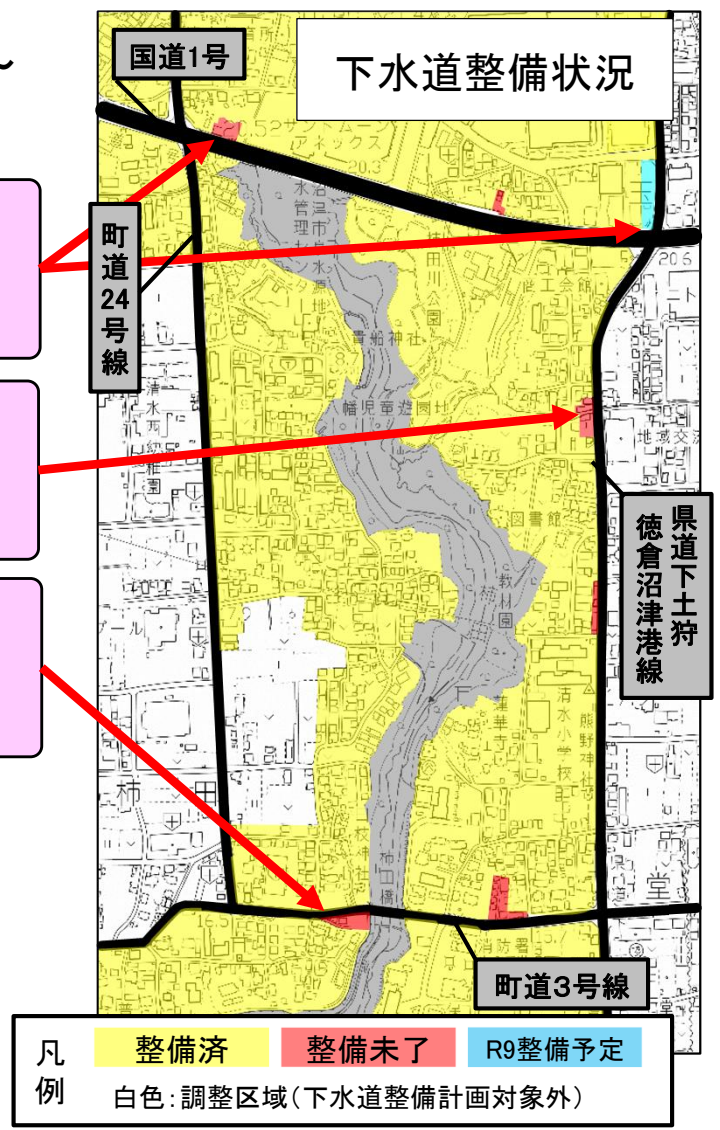
【国道1号以北】
 ・整備未了箇所は、R10年度に整備予定。(右図赤色)
 ・清水町玉川地内の未了箇所は、R9年度に整備予定。(右図青色)

【柿田川左岸】
 ・県道等道路沿線の整備未了箇所は、道路整備等の状況にあわせ、整備予定。(右図赤色)

【柿田川右岸】
 ・町道3号線沿線整備未了箇所は、道路整備にあわせ、整備予定。(右図赤色)

下水道の接続状況

清水町では、下水道整備を進め、R6年度末で同地区の全戸数のうち92.4%が下水道へ接続可能となり、下水道接続が可能な戸数のうち85.9%が下水道に接続している。今後は下水道への接続を勧奨し、接続率の向上を目指す。



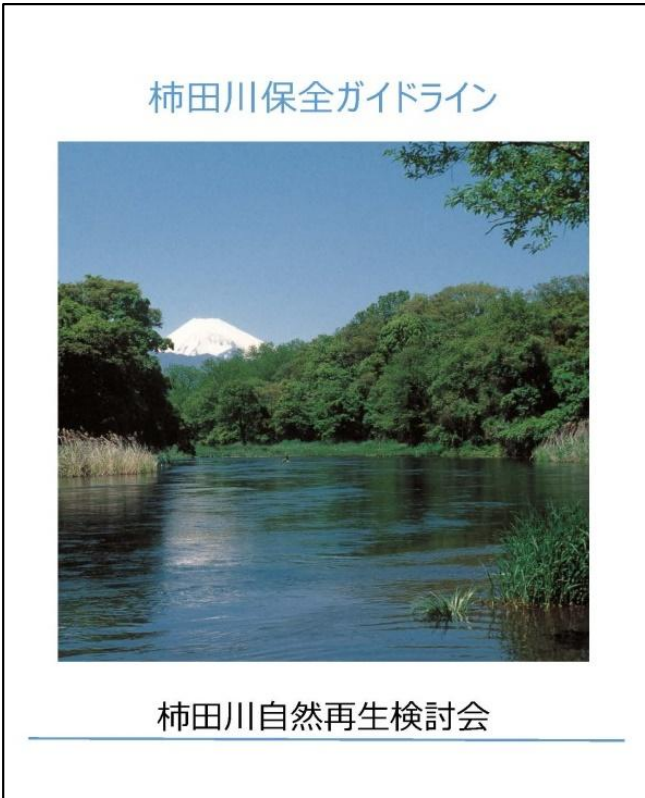
7. (整備メニュー7) 人との関わりに関する検討

7.1 新しいルールや枠組みに関する提案

＜自然再生の目標＞多様な主体が参加できるように構築したルールや仕組みづくりを検討・構築する。

＜目標に対する柿田川の現状＞
自然保護活動や自然学習などの、柿田川における活動や体験を通じ、柿田川の自然保護の必要性を理解してもらうため、そのルール・仕組みとして「柿田川保全ガイドライン」「チラシ」「映像」を作成し、運用を行っている。

＜今後の進め方＞
引き続き自然保護活動や自然学習、ガイドラインやチラシ等の運用を継続するとともに、今後は次世代の人材育成も視野に入れた取り組みを推進する。



「柿田川保全ガイドライン」表紙



「柿田川に入る前に！（チラシ）」



沼津河川国道事務所

「柿田川に入る前に(ビデオ)」
(<https://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/river/ka-kita-kankyau/>)

7.1 新しいルールや枠組みに関する提案

沼津河川国道事務所のホームページにアップロードした「柿田川保全ガイドライン」、「柿田川に入る前に！(チラシ)」、「柿田川に入る前に(ビデオ)」各資料は、静岡県企業局、清水町、(公財)柿田川みどりのトラストのホームページからもアクセスできるようにしている。

柿田川保全ガイドライン

- 柿田川保全ガイドライン PDF (11.87MB)
- 柿田川に入る前に

柿田川に入る前に！
ルールを守って柿田川の自然をともに守りましょう PDF (4.16MB)

<https://www.cbr.mlit.go.jp/numazu/river/ka-kita-kankyou/>

静岡県

駿豆水道用水供給事業の紹介

事業の概要

静岡県は、富士山及び裾野山脈を源とする豊かな地下水。湧水によって、「水郷三島」として名くろ全国に知られていました。

しかし、地域の発展とともに地下水の需要が増大したために、昭和30年代後半には両辺の湧水に不足が見られるようになりました。

弊では、多量の水を使用する「農業型企業」を対象として、地下水利用からの転換を進めるべく、工業用水の整備を計画しました。これが「柿田川工業用水道」です。

この工業用水道は、富士山と裾野山脈を源とする地下水が湧き出し、さらに年間を通じて水量・水温に変動が少ない「柿田川」を水源としております。

柿田川工業用水道は、昭和40年度に着工、昭和44年度に一部給水を開始し、工事を完了した昭和46年3月からは全給水をを行っています。

柿田川では、自然環境の保全・再生に関する取組が行われています。詳しくは次のページをご覧ください。

[沼津河川国道事務所ホームページ\(外部リンク\)](https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/suido/kogyoyosui/1003708/1030534.html)

<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/suido/kogyoyosui/1003708/1030534.html>

(公財)柿田川みどりのトラスト

公益財団法人柿田川みどりのトラスト

ようこそ柿田川みどりのトラストのホームページへ

公益財団法人柿田川みどりのトラストについて

設立趣意書

お知らせ

活動内容

活動スケジュール

賛助会費・寄付

法人情報公開

ボランティア募集

ライブラリ

リンク

問い合わせ先

このホームページでは公益財団法人柿田川みどりのトラストの活動、観察会等種々し物のご案内および柿田川の自然を紹介しています。

2022.11.14 updated

静岡県内関連団体

静岡県 静岡県ホームページ

清水町 柿田川のある静岡県駿東郡清水町のホームページ

国土交通省 沼津河川国道事務所 柿田川の管理等について定期的な会合を当トラストと行い、柿田川再生計画に基づく活動を協働で行っています。柿田川保全ガイドラインはこちらから

清水町

柿田川を外来種から守ろう！

◆「柿田川自然再生計画」はこちら(国土交通省 沼津河川国道事務所)

作業に参加される方・保全、再生活動を行う方は「柿田川保全ガイドライン」や「説明動画」、「チラシ」を事前にご覧ください。

(引用:国土交通省 沼津河川国道事務所「柿田川の環境を守る〜柿田川保全ガイドライン〜」)

- 柿田川保全ガイドライン
- 説明動画「柿田川に入る前に」
- チラシ「柿田川に入る前に！ルールを守って柿田川の自然をともに守りましょう」

<https://www.town.shimizu.shizuoka.jp/toshi/toshi00208.html>

静岡県

柿田川工業用水道事業の紹介

事業の概要

三島市周辺は、富士山及び裾野山脈を源とする豊かな地下水。湧水によって、「水郷三島」として名くろ全国に知られていました。

しかし、地域の発展とともに地下水の需要が増大したために、昭和30年代後半には両辺の湧水に不足が見られるようになりました。

弊では、多量の水を使用する「農業型企業」を対象として、地下水利用からの転換を進めるべく、工業用水の整備を計画しました。これが「柿田川工業用水道」です。

この工業用水道は、富士山と裾野山脈を源とする地下水が湧き出し、さらに年間を通じて水量・水温に変動が少ない「柿田川」を水源としております。

柿田川工業用水道は、昭和40年度に着工、昭和44年度に一部給水を開始し、工事を完了した昭和46年3月からは全給水をを行っています。

柿田川では、自然環境の保全・再生に関する取組が行われています。詳しくは次のページをご覧ください。

[沼津河川国道事務所ホームページ\(外部リンク\)](https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/suido/kogyoyosui/1040824/1040830/1003711/index.html)

<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/suido/kogyoyosui/1040824/1040830/1003711/index.html>

柿田川みどりのトラスト法人賛助会員

ダイトウボウ (株)	東海プラント (株)	特種東海製紙 (株)
(株) エンチャーホームアシスト三島店	(株) 牛若丸	学校法人、石川学園 横浜デザイン学院
(株) マンスリー・サービ	JAふじ伊豆 清水支店	

All right reserved by 柿田川みどりのトラスト, 2010-2022

<http://www4.tokai.or.jp/kakita.rv-trust/>

7.2 柿田川への関心を高める取り組み①

柿田川パネル展示

主催：清水町

柿田川周知活動

柿田川への関心を高めるため、柿田川の歴史、保全活動等をまとめたパネルを作成、清水町図書館に展示。

本年度実績

【日時】 2025年8月2日(土)～2025年8月31日(日)

【場所】 清水町図書館

【対象者】 施設利用者



清水町図書館

特設サイト「柿田川」の開設

主催：清水町

町ホームページ内に特設サイト「柿田川 | Kakita River」を開設し、柿田川の基本情報とともに、柿田川に関する情報を4つのカテゴリーに分けて掲載している。

本年度実績

【開設日】 2025年7月31日(木)

【場所】 町ホームページ内

【閲覧数】 8,332回(令和8年2月10日時点)

【内容】 柿田川の基本情報、「柿田川と富士山」、「柿田川をもっと知る」、「柿田川公園」、「柿田川の画像と動画」



町HP内特設サイト



7.2 柿田川への関心を高める取り組み②

外来種駆除作業への中学生ボランティア募集

主催：清水町

町内中学生を対象として、(公財)柿田川みどりのトラスト主催の柿田川外来種駆除への参加者を募集した。

本年度実績

【日時】 2025年6月28日(土)
～2025年10月11日(土) 計7回

【場所】 柿田川公園

【参加者】 延べ43人



駆除作業の状況

清掃活動の実施

主催：柿田川湧水保全の会

例年、年2回程度実施。町民の参加を呼びかけ、柿田川公園内のノハカタカラクサの駆除等を行なう。2回目をR8年3月に実施予定。

本年度実績

【日時】 2025年7月19日(土)

【場所】 柿田川公園

【参加者】 207人

【内容】 外来種の駆除、ゴミ拾い ほか



清掃活動の状況

7.2 柿田川への関心を高める取り組み③

柿田川での鮎の産卵観察会

主催：柿田川みどりのトラスト

柿田川内に産卵するアユの観察会

【日 時】 2025月11月30日(日)

【場 所】 柿田川流域(舟付場近辺)

【対象者】 参加 40名

【内 容】 柿田川の豊かな自然に触れつつ、清流の恩恵に生きる鮎が数百～数千匹集まり、産卵している状況を間近で観察できる。
今年は、残念ながら観察場所にアユの遡上無く、産卵の様子を見られなかった。



開会式 説明の様子
(提供：柿田川みどりのトラスト)



観察風景
(提供：柿田川みどりのトラスト)

柿田川での自然観察会の開催

主催：柿田川みどりのトラスト

柿田川春の自然観察会

【日 時】 2025月4月6日(日)

【場 所】 柿田川流域周辺(合流点、教材園、第一展望台)

【対象者】 参加 16名

【内 容】 春の花やチョウを始めとする昆虫たち生き物を探しながら、柿田川周辺を歩く。



観察風景
(提供：柿田川みどりのトラスト)



観察風景
(提供：柿田川みどりのトラスト)

7.2 柿田川への関心を高める取り組み④

柿田川での自然観察会の開催

主催：柿田川みどりのトラスト

柿田川夏の自然観察会

【日時】 2025年8月10日(日)

【場所】 柿田川流域周辺(合流点、教材園、第一展望台)

【対象者】

【内容】 狩野川合流点から柿田川の最上流部まで歩き、動植物を観察する予定だったが、荒天のため中止した。



2025年度の観察風景
(提供：柿田川みどりのトラスト)



2025年度の観察風景
(提供：柿田川みどりのトラスト)

柿田川での水に親しむ集いの開催

主催：柿田川みどりのトラスト

水に親しむ集い

【日時】 2025年7月27日(日)

【場所】 柿田川流域(八つ橋近辺)

【対象者】 参加 60名(親子、家族)

【内容】 お子さんがある家族限定のイベント。柿田川に入り魚とりや川の流れの強さ、冷たさそして柿田川に生息する水生動物を見て触れて体感した。



観察風景
(提供：柿田川みどりのトラスト)



観察風景
(提供：柿田川みどりのトラスト)

7.2 柿田川への関心を高める取り組み⑤

柿田川での自然観察会の開催

主催：ふじさんネットワーク(静岡県 暮らし・環境部)、案内：柿田川みどりのトラスト、柿田川自然保護の会

「富士山の恵み柿田川」

親子で水に親しむ自然観察会

【日 時】 2025年8月30日(土)

【場 所】 柿田川流域(八つ橋近辺)

【対象者】 参加 59名(親子、保護者)

【内 容】 柿田川に入り、植物を観察し、魚類を一時的に捕まえて、その生態を勉強した。子どもたちにとって、「富士山からの恩恵」や「自然環境保全活動の大切さ」について、学び・考える貴重な機会となった。



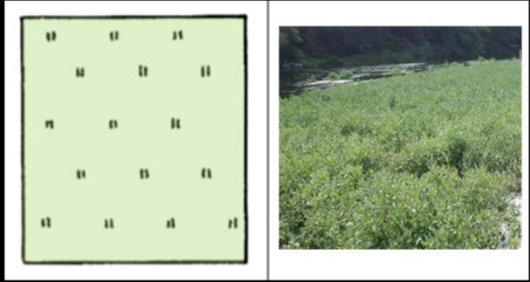
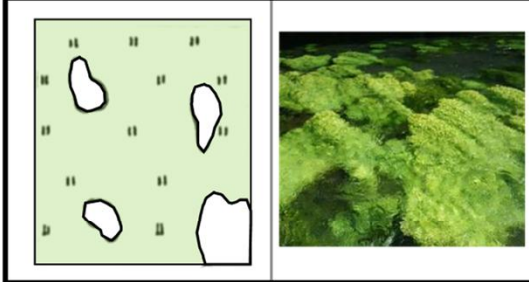
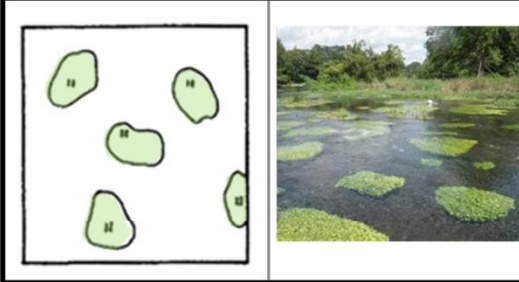
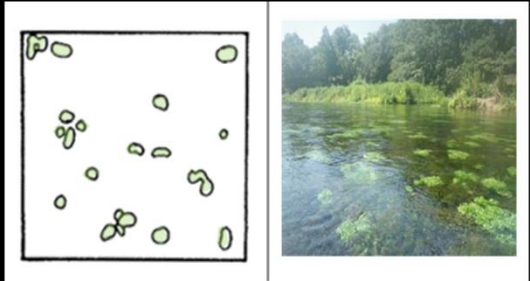

観察風景
(提供：ふじさんネットワーク)



観察風景
(提供：ふじさんネットワーク)

参考資料：外来種駆除活動について(オオカワヂシャの分布について)

オオカワヂシャの分布状態は、bron-blanket法の群度階級(H28水国マニュアル)に基づき、便宜的に群度3以上の面を「密度(高)」、群度2以下の面を「密度(低)」と区分し、図示した。

群度5 (最大)	群度4	群度3
		
カーペット状 (対象種が最も密に分布する状態)	カーペット状のあちこちに穴が空いているような状態のもの	小群のまだら状
群度2	群度1	
		
小群	対象種が単独で存在する面	

注) 群度は、対象とする種ごとに評価しているため、例えば任意面でオオカワヂシャの群度が1であっても、ミシマバイカモの群度は5と評価される場合もある。

bron-blanket群度階級

(H28年度版 河川水辺の国勢調査 基本調査マニュアル[河川版](河川環境基図作成調査編) より一部改良)